

七 中國關稅問題

633 昭和7年3月16日 在中國橫竹(平太郎大使館商務參事官より)
芳沢外務大臣宛(電報)

輸入砂糖の分類法変更による税率改訂の海關

告示について

上 海 3月16日後発
本 省 3月17日前着

商第二四號

(一)當地稅關ニテ砂糖輸入稅率ヲ從來和蘭式總標準ニ依リタルヲ止メ當分「ボラリジエシヨン」ニ依ルコトトシ稅番三六一「キユウブ」「ロウブ」「キヤンデエ」ヲ含マサルモノヲ(A)「インバート」糖二分以上ヲ含ム精製糖「ピクル」金單位五弗八十仙(B)其ノ他ヲ糖分八六度ヲ超エサルモノヲ最低三弗八十仙トシ糖分一度ヲ増ス每三稅金十仙ヲ増シ十四級二分ケ最高九八度以上ヲ五弗八十仙ト定メ稅番三六三及三六三ヲ取消シ稅番三六四ヲ十二弗同三六五ヲ九弗同三六六ヲ從價五割ニ改メ來ル四月一日ヨリ實施ノ旨告示セリ

(二)右ノ結果本邦製糖ハ全部稅番三六一ノ(A)トシテ五弗八十仙ヲ課セラレ現行二弗九〇仙ニ對シ二倍トナリ「ジャバ」白「ザラ」、中「ザラ」、赤「ザラ」モ夫々二倍トナリ更ニ現在市價ヨリシテ本邦製糖十一割見當「ジャバ」白「ザラ」十一割、中「ザラ」十一割五分赤「ザラ」八割ノ重稅トナル

(三)原料「ジャバ」糖ハ普通糖分九八度以上ナレハ精製糖ト同額ヲ課セラレ支那ニ於ケル製糖業ハ不利ナル立場トナル「キユーバ」糖ハ糖分九七度前後ナレハ稅金五弗十仙トナリ精製糖トノ間ニ現行率ニテ五十仙ノ開キニ對シ新稅ニテ七十仙ノ開キトナリ競爭上稍有利トナルモ前述ノ如ク一般ニ重稅ヲ課セラル結果ハ却ツテ他面ニ於テ精製糖ニ對スル需要ヲ增加スル事トナルヤモ知レス

634 昭和7年3月30日 河相(達夫)関東府外事課長より
芳沢外務大臣宛(電報)

砂糖増税問題は海關帰属問題と不可分につき

総稅務司へ態度明示の電請を大連海關長に依頼について

第七號

関東府 3月30日後発
本 省 3月30日後着

ヲ請フ

安東ヨリ問島へ轉電ヲ請フ

大臣、支、奉天、安東、牛莊、哈爾賓ニ轉電セリ

635 昭和7年4月(1)日 在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

砂糖輸入稅增徵に対する新稅支払い拒否の方針および滿州国の海關長宛否認通告について

安 東 発

本 省 4月1日後着

第六四號

本官發關東長官宛第一號ニ關シ

第七號

二十八日砂糖稅率引上ケニ付安東ニ於テハ商議等强硬ニ反對シ居ル模様ナルカ營口其他ノ歩調捕ハサルヤニ考ヘラル處本日福本ヨリ本官ニ對シ關東廳ハ大連ニ於ケル實施方承認スルヤ否ヤニ付明確ノ回答ヲ得度キ旨申入レ來リタルヲ以テ右ハ急速ニ回答シ難キ旨話シ置ケリ尙福本ハ此ノ際ハ双方ノ仲介者ナル立場ヨリI、Gニ對シI、Gカ海關ニ關スル根本問題ニ付至急態度ヲ明示スルニアラサレハ此等諸案件ハ到底圓滿ナル解決ヲ期シ難ク砂糖稅ノ問題モ畢竟切離シ解決シ得ヘキモノニアラサル旨大至急電稟方促シタル處福本ハ直ニ電報方約セリ砂糖稅問題ハ期日切迫ノ折柄长春政府ノ措置方決定ヲ見ル様御取計ヒノ上當方ニモ回電

663

662

督ヨリ公文ヲ以テ海關長ニ對シ新國家トシテ本件引上ヲ容認セサル旨ノ通告ト共ニ右ニ對スル海關側ノ意向同示方要求シ來リタル趣ニテ問題ハ更ニ對新國家ノ命令關係トナリ至急此レカ對策ヲ講スルノ必要ニ迫ラレタル結果海關長ハ直ニ總稅務司宛右ノ次第ヲ具シ且ツ當地商民間ノ反對ノ事情ヲ電報シ此レニ對スル措置振請訓セル趣ナリ

上海、奉天、長春、關東長官ニ轉電セリ

636 昭和7年4月9日 林関東庁警務局長より
永井外務次官宛
堀切拓務次官宛

砂糖輸入税増徵に対し大連の旧税率通関および滿州国の各地海關長宛否認通告について

關機高第三八八九號ノ二

(4月14日接受)

昭和七年四月九日

關東廳警務局長

拓務次官殿

外務次官殿

砂糖税十割増徵發表ト其ノ狀況

中國南京政府ハ軍費其他ノ膨張ニ基ク財源捻出策トシテ各

程度ニ過キス此點新國家ノ海關接收上相當考慮ノ豫地アリト認ムト洩シ居レルカ

一方滿洲國側ハ生活必需品タルノ故ト海關接收等ノ見地ヨリ當分舊稅率ニ依ルコトニ決定其旨所在海關長ニ通告方財政廳ヨリ各海關監督宛通令アリタルカ本件ニ關シ山海關ニ於ケル狀況左記ノ通り相當強硬ナル態度ヲ持シ居リ結局滿洲國所在海關ニ於テノ新稅實施ハ不可能ニ終ルモノト認メラル御参考迄

支那海關ノ四月一日ヨリ實施セントスル砂糖稅十割增徵ニ關シ客月二十九日附山海關監督公署ニ別紙ノ如キ布告ヲ發シ更ニ四月四日署員ヲ當地商業會議所ニ派シ布告理由ヲ説明セシメタル處ニ據レハ新國家トシテハ該新稅率ヲ認メ斯現品輸入ニ當リ海關ヨリ徵稅セントスル場合ハ直接山海關監督ニ申出テ同監督ヨリ稅務司ニ交渉シ徵稅ニ應スル要ナキ様取計ヒ又場合ニ依レハ強制通關スルモ支障ナキ旨相當強硬ナル態度ヲ示シ來リタリト云フ而シテ山海關ニ於テハ四、五兩月ハ全ク輸入ナキモ六月ニ入りテ相當ノ輸入ヲ見ルモノト認メラレ現品輸入ニ際シテハ必然本關稅問題ヲ見

海關ニ對スル四月一日ヨリノ砂糖輸入稅在來ノ二倍ニ相當スル十割ノ徵稅通令ハ意外ノ波紋ヲ畫キ一般商家ニ多大ノ衝動ヲ與ヘ之カ成行相當關心セラレタル處ナルカ之ヨリ先滿洲國ハ三月二十六日國內所在ノ海關接收ヲ各海關長ニ通告シ直ニ接收ニ着手シタルアリ又特種事情下ノ大連海關ヲ加ヘ其ノ關係頗ル微妙ノ間ニアリ特ニ大連海關ノ態度ハ内外人ヨリ注目セラレツツアリシカ實施期ノ四月一日ニ新稅ニ據ルヤ否ヤ決定セサリシモノノ如ク當日ハ砂糖ノ輸送ヲ停止シタリシモ翌二日ヨリハ舊稅率ニ依リ通關開始セルカ(當廳)ニ求メタルモ何等其ノ解答ニ接セス上海總稅務司ニ對シテハ合法的新稅實施不可能ナル旨請訓ヲ仰キ居ルモ之亦何等回訓來ラサリシヲ以テ自分ハ其ノ立場ニ窮シタル結果急場ノ措置トシテ自己ノ最善ト信スル方法ヲ採リ舊稅率ニヨリ徵稅ノ事ニ爲シタルカ關東廳當局ニ於テハ勿論異論ナキモノト認ムルモ總稅務司ヨリハ如何ナル命令來ルヤ判明致シ難シ

而シテ滿洲國當局ノ海關接收上管下海關ニ對スル態度極メテ軟弱ニシテ直接稅關長ニ面會シ得サル監視員ヲ派シ居ルナキモノト認ムルモ總稅務司ヨリハ如何ナル命令來ルヤ判明致シ難シ

起スヘク豫想サルモ當業者トシテハ荒川牛莊領事ノ意見モアリ強制通關ノ方法ヲ採ルヘク略決定シ居レリト謂フ

(別 紙)
譯 文
海關監督公署布告第一號
布 告

財政部訓令ニ本部ハ最近總稅務司ヨリ報告ニ接シタルカ右ニ依レハ各海關ハ現行砂糖輸入稅率ヲ每一擔二元九十錢海關金單位ヲ二倍增加シ四月一日ヨリ徵收ヲ實行ス云々ノ通令アリタルモ右ハ現在滿洲國ハ已ニ中華民國ヨリ完全ニ分離獨立シ居レルヲ以テ關稅行使モ自主權ヲ有スコトニナリタル次ニシテ該電報ノ如キ增加稅率ハ之ヲ承認シ能ハス即時四月一日ヨリ實行期間以後若シ本部ヲ經由セサルモノハ如何ナル命令アルモ依然現行稅率ニ照シ徵收ス依テ茲ニ關係方面ニ通知スル外通令スルニヨリ本布告ヲ遵守シ違反スルコト勿レ右通令ス云々ノ通令ニ接シ候依テ命ニ依リ茲ニ本關稅務司ニ通知遵照辦理セシムル外一般ニ布告スルニ依リ華洋商人一体之ヲ知得シ嗣後輸入砂糖ニ關シテハ本部

ヨリ何等カ命令アル迄以前ノ規則ヲ照シ現行稅ヲ完納シテ
然ルヘシ右此ニ布告ス

大同元年三月二十九日

山海關監督吏 靖實代

科長 孫德峻
以上

大臣へ轉電セリ

637 昭和7年5月14日 在南京上村總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

大連海關の砂糖増稅実施拒否に対する中國外 交部長の抗議について

南京 5月21日後發

本省 5月21日後發

生絲輸出稅免除の決定および人絹輸入稅增稅

索取止めの見込みについて

南京 5月14日後發

本省 5月14日後發

第三八三號 本官發支宛電報第三七一號

往電第三四六號ニ關シ

十四日關務署謝秘書ノ談ニ依レハ財政部ハ生絲輸出稅ヲ免除スルニ決定シ右總稅務司ニ訓令方取計中ナル趣ナリ尙輸入稅ノ增加問題モ右ハ結局密輸入ヲ助長スルコトト爲ルノ

ミナラス國內絲業ニハ左シテ效能無キニ付多分取止ト爲ル
ヘシトノコトナリ
外交(部)長ヨリ二十一日附貴公使宛公文ヲ以テ大要左ノ通り申越セリ今般財政部ヨリ「曩ニ公布セル糖類新輸入率ハ四月一日ヨリ全國稅關ニ於テ一律ニ實施中ナルカ報告ニ依レハ大連稅關ハ關東廳ノ阻止ニ依リ未タ實施シ居ラサル趣ニシテ關東廳ノ唯一ノ理由トスル所ハ東三省各稅關ニ於テハ未タ糖稅新稅率ヲ實施シ居ラサルカ故ナリト言フニ在ル

第三八五號 本官發支宛電報

第四〇〇號

本省 5月21日後發

本省 5月21日後發

第三八八號 本使宛南京發電報第三八五號ニ關シ

外交部長公文ニ對シ左記ノ本使公文ヲ以テ回答シタキ處差支ナキヤ何分ノ儀御同示ヲ請フ(尙海關設置協定(十二)ハ其解釋上條約違反ノ根據トシテ薄弱ナリト認メラル併セテ御考量請フ)

(一)大連海關設置ニ關スル日支間ノ協定ニ依レハ大連海關ニ於テハ現行條約ノ規定ニ從ヒ輸入稅ヲ課スヘキモノナリ然ルニ現行條約ニ於テハ輸入稅率ニ關シ最惠國待遇ヲ規定シ居ル處本件砂糖新稅率ハ未タ東三省各海關ニ於テ等シク實施セラレ居ラサルヲ以テ獨リ大連海關ニ於テノミ之ヲ實施スルハ明カニ右最惠國待遇ノ規定ニ反シ前記海關設置ニ關スル協定ニ違反スルモノナリ日本政府トシテハ大連海關ニ於テハ右ノ如ク條約ニ違反スル新稅率カ實施セラルルコトヲ承認スル能ハス

(二)尙東三省各海關ニ於ケル砂糖新稅率實施ノ問題ハ全ク
(貴カ)英國政府ト滿洲國トノ關係ニシテ日本政府ノ何等關係ナハ此點ニ關シ誤解ナキコトヲ望ム

砂糖増稅大連海關拒否問題に関する外交部長
抗議への回答案について

639 昭和7年5月24日 在中國重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海 5月24日後發

本省 5月24日後發

640 昭和7年5月27日 斎藤外務大臣より
在中国重光公使宛(電報)

砂糖増税大連海關拒否問題に関する外交部長
宛回答につき回訓

本省 5月27日後4時0分發

貴電第八九八号ニ閑シ
第三三五號

大連海關ニ於ケル本件税率引上ヶ拒絕ノ理由トシテ御来示
ノ貴電(一)ノ点ハ理論上一應尤モナルモ此点ハ先方ニ於テモ
特ニ問題トシ居ル次第ニハ非ス先方主張ノ重点ハ在滿各海
關ニ於ケル本件新税率実施不能ノ責任ガ日本側ニ在リト云
フニアル様思考セラル、ニ付此際ハ大連海關協定ノ規定ヲ
援用スルコトヲ避ケ(海關協定(十二)モ貴見ノ通り旧税率
据置ノ根據トシテハ薄弱ナルヲ免レス)貴電(一)ハ大体海東
長官発貴官宛電報第十六號ノ趣旨ニ依リ本件ハ仮令将来在
滿各稅關ニ於テ商人ヨリ新稅ノ追徵ヲ為スト云フモ右實行
ヲ見スシテ直チニ大連海關ニ於テノミ新税率ヲ實施スルニ
於テハ結局大連經由砂糖貿易ノ差別待遇ハ免レサルモノナ

リトノ趣旨ニ改メラレ貴電(一)ノ点ト一括シテ回答方可然取
計ハレタシ

641 昭和7年6月2日 在中国重光公使より
斎藤外務大臣宛

砂糖増税大連海關拒否問題につき外交部長宛

回答送付について

機密公第一六八號

昭和七年六月二日

在中華民國

特命全權公使 重光 葵〔印〕

外務大臣子爵 斎藤 實殿

昭和七年六月二日附在南京上村書記官宛機密公第一六〇號

信寫送附

大連關ノ糖類新税率適用問題

機密公第一六〇號

昭和七年六月二日

在中華民國

特命全權公使 重光 葵

昭和七年六月二日

在中華民國

特命全權公使 重光 葵

昭和七年六月二日

テ再三聲明セル所ニ依リ明白ナルモ此點誤解ナキ様爲念附
言致候。

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。

敬具。

昭和七年五月三十日

日本帝國特命全權公使 重光 葵

國民政府外交部長 羅文幹殿

642 昭和7年6月(1)日 在安東米沢領事より
斎藤外務大臣宛(電報)

砂糖輸入税増徴への日本側支払い拒否に対する
トルボット海關長の反駁について

付記 通商局作成覚書(作成日不明)

滿州各海關の砂糖増税の実施振りについて

本件新輸入税ハ、假令滿洲各海關ニ於テ將來商人ヨリ追徴

セラルヘシト言フモ、現ニ實際上徵收セラレ居ラサルヲ以
テ大連海關ニ於テノミ直ニ新税率ヲ實施スルトキハ、結局
大連經由砂糖貿易ハ差別待遇ヲ受クルコトトナル次第ニ
テ右ハ我方ノ同意シ難キ所ニ有之候。

尙滿洲各海關ニ於ケル糖類新税率實施ノ問題ニ對シ帝國政
府ニ於テ何等關係ヲ有セサルモノナルコトハ既ニ本使ニ於

最近支那人ニシテ香港及大連經由砂糖ヲ輸入シ當地海關ニ
於テ新輸入税ヲ支拂ヒタル實例(香港ノ例ニ付テハ客月一

第一二二號

安 東 発
本省 6月11日前着

十六日附拙信第四五七號參照アル處右ニ關シ滿洲國財政部ヨリ當地崎川顧問ニ對シ飽ク迄新稅ノ適用ヲ否認シ舊稅トノ差額ヲ拂戻サシムヘキ旨命令アリタル趣ニテ昨今崎川ニ於テ海關監督ヲシテ海關側ニ交渉セシメツツアル處海關側ニ於テハ滿洲人ニ對シテハ其ノ滿洲國ノ治下ニアル關係上曩ニ滿洲國ヨリノ新稅實施差止ノ通告ニモ鑑ミ拂戻ニ應シ得ヘキカ如キモ日本人ニ對シテハ日本カ滿洲國ヲ承認セサル限り支那ノ關稅自主權ニ基ク新稅ヲ認ムルノ外無ク現ニ日本商人ニシテ最近新稅ヲ支拂ヒタル例(水飴四千斤、但代辦業者ニ於テ「ゼリー」トシテ申告シ砂糖ノ稅率ノ適用アルコトヲ知ラサリシ由)モアリ日本人側ニ於テ拂戻ヲ要求シ得ヘキ根據ヲ明示シ得サル限り取扱ヲニ三ニシ得ヘカラサル關係上支那人ニ對シテモ拂戻ヲ爲スコト困難ナリト稱シ居ル趣ナルカ本件ニ關シ「トルボツト」海關長ハ本官ニ對シ最近大連關ニ於テハ新稅ノ實施ニ付關東廳ヨリ在満他海關ニ於テ未タ實施セサルカ故ニ承認シ得サル次第ナリトノ説明(關東長官發公使宛第一六號ノ趣旨ヲ福本ヨリ通報シ來レルモノナルヘシ)ヲ得タリトノコトナレハ貴官トシテハ大連關ノ取扱ニ準シ同關ニ對シ關東廳カ獨自ノ立場

(欄外記入)
十六日附拙信第四五七號參照アル處右ニ關シ滿洲國財政部ヨリ當地崎川顧問ニ對シ飽ク迄新稅ノ適用ヲ否認シ舊稅トノ差額ヲ拂戻サシムヘキ旨命令アリタル趣ニテ昨今崎川ニ於テ海關監督ヲシテ海關側ニ交渉セシメツツアル處海關側ニ於テハ滿洲人ニ對シテハ其ノ滿洲國ノ治下ニアル關係上曩ニ滿洲國ヨリノ新稅實施差止ノ通告ニモ鑑ミ拂戻ニ應シ得ヘキカ如キモ日本人ニ對シテハ日本カ滿洲國ヲ承認セサル限り支那ノ關稅自主權ニ基ク新稅ヲ認ムルノ外無ク現ニ日本商人ニシテ最近新稅ヲ支拂ヒタル例(水飴四千斤、但代辦業者ニ於テ「ゼリー」トシテ申告シ砂糖ノ稅率ノ適用アルコトヲ知ラサリシ由)モアリ日本人側ニ於テ拂戻ヲ要求シ得ヘキ根據ヲ明示シ得サル限り取扱ヲニ三ニシ得ヘカラサル關係上支那人ニ對シテモ拂戻ヲ爲スコト困難ナリト稱シ居ル趣ナルカ本件ニ關シ「トルボツト」海關長ハ本官ニ對シ最近大連關ニ於テハ新稅ノ實施ニ付關東廳ヨリ在満他海關ニ於テ未タ實施セサルカ故ニ承認シ得サル次第ナリトノ説明(關東長官發公使宛第一六號ノ趣旨ヲ福本ヨリ通報シ來レルモノナルヘシ)ヲ得タリトノコトナレハ貴官トシテハ大連關ノ取扱ニ準シ同關ニ對シ關東廳カ獨自ノ立場

ヨリ實施ノ承認ヲ差控ヘ居ル限り安東ノミ差別待遇ヲ受クルコトヲ承認シ得ストノ論(往電第六四號前段參照)ヲ維持シ得サルヘク一面關東廳トシテモ當地ニ於テ既ニ實施ヲ見居ル以上大連關ニ於ケル實施ヲ阻止シ得サルヘシ云々ト語

リ前記關東廳ノ説明ノ內容カ海關側ニ有利ナル口實ヲ與ヘタルニ満足シ居レリ

公使、奉天、間島、長春、牛莊、關東長官へ轉電セリ
(欄外記入)
在満他館ノ實際取扱振如何ニナリオルヤ スミ
(付記)
在南京上村總領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

間島ニ於テハ四月二日附海關告示ヲ以テ同様布告スル所アリ五月十一日附同地總領事ヨリノ報告ニヨレハ同日マデニハ砂糖ノ輸入ナク新稅率適用ノ實際問題起ラサリシモ稅關長ハ本件布告實施ノ意嚮ナルカ如シ

643 昭和7年6月23日

在南京上村總領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

砂糖增稅大連海關拒否問題の責任は日本政府にある旨の中國側再抗議について

南 京 6月23日後發
本 省 6月24日後着

第四八四號

本官發支宛電報

第四五三號

本月二日附機密公第一六〇號貴信ニ關シ

外交部ヨリ在支公使宛廿三日附公文ヲ以テ大要關東廳カ大連海關ニ於テ糖類新輸入稅ノ徵收ヲ阻止セシムルハ大連海關設置ニ關スル協定第十二條ニ違反スルト共ニ支那關稅主權ノ行使ヲ妨害スルモノナル旨ヲ述ヘタル後日本側カ偽組

對シ舊稅トノ差額拂戻方要求スルト共ニ將來飽迄新稅ノ賦
織ヲ指嗾シテ安東營口等ノ海關ヲシテ中央ノ命令ヲ執行セシメス一面之ヲ口實トシテ大連海關ニ於ケル糖類新輸入稅ノ實施ヲ阻害スルハ二重ニ支那ノ主權ヲ破壞スルモノナリトテ大連海關ニ於ケル本件徵稅ヲ阻止セサル様日本政府ニ打電アリ度キ旨申越セリ原文郵送ス

外務大臣、北平、奉天、長春、關東廳長官へ轉電セリ

644 昭和7年6月24日

在安東米沢領事より
斎藤外務大臣宛(電報)

砂糖輸入稅問題に関する關係者協議会において海關側と妥協成立について

安 東 6月24日後發
本 省 6月24日後着

第一三五號

砂糖新輸入稅實施問題不確定ノ狀態ニ在ル爲當業者ニ於テハ自然輸入ヲ差控ヘ速ニ舊稅ニテ通關方決定ヲ見ル様本官ニ對シ再三要望ノ次第アリ豫テ海關トノ間ニ折衝中ノ處一面當地海關監督側ニ於テハ滿洲國ノ命ニ依リ既納ノ新稅ニ

課ヲ排シ目下輸入手續中ノ砂糖(上海ヨリ輸入粗目一六六

斤)ニ對シ場合ニ依リテハ舊稅ヲ供託シ強制通關ノ手段ニ出テントサヘセルノ勢ヲ示シ來レル爲海關側ニ於テハ滿洲人ノ附屬地外陸揚輸入ニ付テハ舊稅ヲ承認スルノ外無キ事

情ニ立至リタル處海關長トシテハ荷受人ノ國籍又ハ陸上箇所ノ差異ニ依リ稅率ヲ二、三ニスルコト能ハサル關係上日

本側ノ主張ヲ斟酌シ取扱ヲ一定スルカ爲本官ニ於テ海關監督及海關長ヲ加ヘ協議會ヲ開催センコトヲ希望シ監督側ヨリモ同様斡旋方申出アリタルヲ以テ二十三日當館ニ關係者

ノ參集ヲ求メ意見ノ交換ヲ爲シタルカ監督側ヨリハ滿洲國獨自ノ立場ヨリスル新稅否認論ヲ強調シ本官ヨリハ大連關

ニ於テ舊稅ヲ維持シ居ル限り當地ニ於テモ新稅ノ實施ヲ見合ハスヘク然ラサレハ當地ノ砂糖輸入貿易ハ杜絶ノ外ナク

右ハ本官ノ職責上看過シ能ハサル處ナリトノ經濟上ノ見地ヨリスル新稅實施不承認ヲ主張シタルニ對シ海關長ハ滿洲國側ノ獨立ハ未タ南京政府ノ承認セサル處タルコト竝日本

ハ民國ノ關稅自主權ヲ認メ居ルコト等ノ理由ヲ以テ無條件舊稅通關ニ同意セス最少限度新稅供託ノ方法ニ依ルヘシト

ノ主張ヲ固持シテ讓ラサリシカ結局相互歩寄リノ結果最後ハ

貴電合第九二號ニ關シ
大連關カ舊稅ヲ適用シ居ルハ滿洲國權力下ニアル諸稅關力新稅ヲ拒否セラレ居ルコトヲ前提トシ之ト均衡ヲ失スルコトハ大連港ノ耐ユル處ニ非ストノ當廳ノ言分ニ基クモノナルコト御承知ノ通りナリ就テハ大連ヲ標準トシテ貴方舊稅維持ノ主張ニ利用サルモ鹽廻シノ論法ハ結局ニ於テ當廳ノ責任論ヲ生スル恐レアリ爾後避ケラル様致シ度シ大臣、支、奉天、牛莊ニ轉電セリ

貴電合第九二號ニ關シ

大連關カ舊稅ヲ適用シ居ルハ滿洲國權力下ニアル諸稅關力新稅ヲ拒否セラレ居ルコトヲ前提トシ之ト均衡ヲ失スルコトハ大連港ノ耐ユル處ニ非ストノ當廳ノ言分ニ基クモノナルコト御承知ノ通りナリ就テハ大連ヲ標準トシテ貴方舊稅維持ノ主張ニ利用サルモ鹽廻シノ論法ハ結局ニ於テ當廳ノ責任論ヲ生スル恐レアリ爾後避ケラル様致シ度シ大臣、支、奉天、牛莊ニ轉電セリ

646 昭和七年七月二日

林閔東府警務局長より
有田外務次官宛
堀切拓務次官宛

海關接收に際し滿州國は從來の稅率を踏襲するが砂糖のみは増稅以前の稅率により徵収に

ついて

關機高第八五五四號ノ二

(7月7日接受)

昭和七年七月二日

關東廳警務局長

拓務次官殿

外務次官殿

二

(一)今後砂糖ノ輸入ニ付テハ舊稅ヲ以テ通關ス但輸入者ニ於テ將來新稅ノ賦課ヲ見ルコトニ決定シタル場合ニハ差額ヲ支拂フヘキコトヲ申告書ニ記載スルコト

(二)從來既ニ新稅ヲ支拂ヒタル分ニ對シテハ海關ニ於テ差額ヲ拂戻ス但商人ニ於テ前項通リノ保證ヲ爲スコト
ト妥協上村リ即時右取扱ヲ開始スルコトトナレリ就テハ何等御意見ノ次第モアラハ折返シ御電示ヲ請フ

支、奉天、間島、哈爾賓、長春、牛莊、關東長官へ轉電セリ

645 昭和七年六月24日 山岡關東長官より
斎藤外務大臣宛(電報)

大連海關砂糖稅支払い拒否を安東における同稅

実施拒否の理由とするとの差止めについて

關東府

6月24日後發

本省 6月24日後着

第四一號

本官發安東宛電報第五號

滿洲國ノ海關接收ト砂糖新稅率問題
砂糖新關稅十割增徵ニ對シ滿洲國ノ不承認問題ニ關シテハ已報ノ如クナルカ營口及安東ニ於テハ領事ノ交渉ニ依リ新稅率確定次第追納ヲナス條件ニテ舊稅率ニ依ルコトニ協定成立セルカ今回滿洲國ニ於テ海關ヲ接收シ當分從來南京政府ノ稅率ヲ踏襲スルモ砂糖ノミハ本年四月一日以前ノ稅率(十割增徵廢止)ニ依リ徵收スルコトニ決定シ本問題モ自然解決スルニ至レリ

以上

647 昭和七年七月8日 林閔東府警務局長より
有田外務次官他宛

内地における撫順炭輸入阻止運動に対する滿鉄の対応について

關機高第八七八八號

(7月13日接受)

昭和七年七月八日

關東廳警務局長

外務次官殿

内務省警保局長殿

指定廳府縣長官殿

内地石炭聯合會ノ撫順炭輸入阻止問題ト滿鐵當局

ノ態度

財界不況ノ爲本邦生産工業ノ萎縮二件ヒ各炭礦共經營難ニ陥リ就中内地唯一ノ炭礦地タル福岡筑豊炭田ノ如キハ撫順炭輸入阻止ノ運動ヲ起シ代表ヲシテ福岡縣選出代議士ト同道シ滿鐵東京支社ヲ訪問在京中ノ副總裁並ニ支社長專務等ト面接シ本問題ニ關シ折衝ヲ重ネ居レル模様ナルカ本件ニ關シ滿鐵商事部谷次長ノ語ル處ニ依レハ互助會代表ト東京支社長副總裁力折衝シタル經緯ニ關シテハ電報ニテ通報シ來レルカ撫順炭輸入阻止ニ關シテハ應諾ヲ與ヘス考慮スト

回答シタル模様ニシテ從來内地側ヨリ撫順炭内地進出ニ關シ之カ制限並ニ阻止運動起リ居タルヲ以テ昭和五年石炭聯合ト協調ノ結果年二百萬噸迄輸入可能ノ契約アリ爾來該契約ニ基キ輸出ヲナシ居レルモノニシテ未タ嘗テ規定量ヲ超過シタル事ナク又價額ニ於テモダンピング扱ニサルル程度ノ採算ヲ無視シタル値段ニアラス唯炭質ニ於テ内地炭ヨリ

648 昭和7年7月15日 在中國堀内臨時代理公使より
内田外務大臣宛
砂糖増税大連海關拒否問題は日本政府の責任
外との外交部長宛回答文送付について
(7月23日接受)

機密公第二一〇號
以上

昭和七年七月十五日

在中華民國

公使館一等書記官 堀内 干城〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和七年七月十五日附在南京上村書記官宛機密公第二〇八號信寫送付

大連海關ニ於ケル糖類新輸入税率實施方ニ關スル件機密公第二〇八號

昭和七年七月十五日

在中華民國

公使館一等書記官 堀内 干城

在南京

二等書記官 上村 伸一殿

大連海關ニ於ケル糖類新輸入税率實施方ニ關スル件別添公文外交部ニ御轉達相成度

本信寫送付先 外務大臣 北平 奉天 長春 安東
別添公文外交部ニ御轉達相成度

外第四七號

以書翰啓上致候。陳者、客月二十三日附貴翰ヲ以テ大連海

優秀ナル關係上消費者側ヨリ撫順炭ヲ歡迎セラル關係モ

アリ今回ノ如キ運動カ起レルモノト思料セラル尙石炭ノ内地進出問題ハ撫順炭ノミニ限ラレタルモノニアラス外國炭モ相當進出シ居ルニ鑑ミ滿鐵ノミヲ攻撃スルハ當ヲ得ス又財界不況ニヨル炭礦界ノ疲弊ハ内地ノミナラス滿鐵トシテモ尠カラサル打擊ヲ蒙リ搗テ加ヘテ今回ノ事變ニテ南方向ノ杜絶ハ販賣上大支障ヲ來セル狀態ニ在リ而シテ日本一ヶ年ノ消費量三千萬噸中僅カ撫順炭ノ二百萬噸ヲ輸入阻止ノ舉ニ出ルハ餘リニ我田引水的ノ行爲ニシテ生産工業ノ國家の方策ヲ全々度外視セルモノト思料サル云々ト稱シ居リ滿鐵トシテ該要求ニ應スル事ハ如何ニ特種會社タリトモ多數ノ株主ヲ擁スル見地ヨリ不可能ナリトノ方針ナル如シ

優秀ナル關係上消費者側ヨリ撫順炭ヲ歡迎セラル關係モアリ今回ノ如キ運動カ起レルモノト思料セラル尙石炭ノ内地進出問題ハ撫順炭ノミニ限ラレタルモノニアラス外國炭モ相當進出シ居ルニ鑑ミ滿鐵ノミヲ攻撃スルハ當ヲ得ス又財界不況ニヨル炭礦界ノ疲弊ハ内地ノミナラス滿鐵トシテモ専カラサル打擊ヲ蒙リ搗テ加ヘテ今回ノ事變ニテ南方向ノ杜絶ハ販賣上大支障ヲ來セル狀態ニ在リ而シテ日本一ヶ年ノ消費量三千萬噸中僅カ撫順炭ノ二百萬噸ヲ輸入阻止ノ舉ニ出ルハ餘リニ我田引水的ノ行爲ニシテ生産工業ノ國家の方策ヲ全々度外視セルモノト思料サル云々ト稱シ居リ滿鐵トシテ該要求ニ應スル事ハ如何ニ特種會社タリトモ多數ノ株主ヲ擁スル見地ヨリ不可能ナリトノ方針ナル如シ

649 昭和7年7月16日 在漢口坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿州國海關發行書類の取扱いは從來通りとするとの總稅務司回訓につき海關側より通牒について

ついて

漢口 7月16日後発
本省 7月17日後着

堀内書記官發廣東宛電報第一〇號ニ關シ
第四九八號

河南丸ハ大豆油五百噸ノ荷役ヲ無事完了シ十三日出港セル
カ最初當地稅務司ハ滿洲國海關ノ發行セル書類ノ取扱方ニ
關シ總稅務司ヨリ何等ノ指令ニ接シ居ラサリシ爲大連積ノ
大豆油五百噸ニ對シ當地ニ於テ輸出稅ヲ再徵ス可キヤ將又
輸入稅ヲ課ス可キヤヲ請訓シ回訓ニ接スル迄ハ輸入稅相當
額ノ供託ヲ爲ス事ヲ條件トシテ之カ荷役ヲ許シタルモ當方
ヨリ交渉ノ結果供託金ノ要求ヲ撤回シ直ニ貨物ノ陸揚ヲ許
可シタルカ越ヘテ一昨十四日ニ至リ總稅務司ヨリ右貨物ハ
從來ト同様ノ取扱振ニテ通關ス可シトノ回訓ニ接シタル旨
公文ヲ以テ通牒シ來リ尙一昨十四日入港嵩山丸ノ營口積撫

順炭三千七百五十噸モ無事陸揚ヲ了セル實情ナリ

冒頭電報ノ通轉電セリ

650 昭和7年7月19日 在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

滿州移出入品への輸出入稅等賦課につき財政部検討との報道について

南京 7月19日後発
本省 7月19日後着

第五二三號

十九日ノ新聞ハ財政部方面ノ消息トシテ總稅務司ハ東北海關ノ負擔スル内外債總額ノ百分ノ十五ヲ六月分トシテ準備金中ヨリ支出セルカ政府ハ信用ヲ維持シ各國債權ヲ保護スル爲最後ノ手段トシテ滿洲ニ輸入シ又ハ滿洲ヨリ輸出スル貨物ニ對シテハ總テ國民政府ノ指定スル海關ニ於テ輸出入稅又ハ轉港稅ヲ徵收シ之ニ違反スル者ハ規定ニ依リ處罰スルコトトナリ右ノ次第八近ク總稅務司ヨリ發令スルト同時ニ外支商人及船會社ニ對シテモ通告スヘキ旨報道シ居レリ尙新聞ハ奉天、安東、延吉、愛琿各海關ノ吏員ハ密ニ上海

ニ逃レ歸レルカ中ニハ日本人ノ監視ヲ受ケ自由ヲ失ヒ出發出來サル者モ有リ總稅務司ハ滿洲國側ニ利用セラレサル之等吏員ニ對シテハ引續キ給料ヲ支拂ヒツツアル處一方滿洲人、無賴ノ白露人ヲ寄集メ居レルカ之カ爲海關行政ハ全ク紊亂セル旨報道シ居レリ
支、北平、奉天、長春、天津、青島、漢口、廣東、關東長官へ轉電セリ

651 昭和7年7月26日 在漢口坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿州國と中國の海關間の關係断絶に伴う書類

不備による輸入稅供託の実例について

漢口 7月26日後発
本省 7月26日後着

652 昭和7年7月29日 在上海村井總領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿州海關封鎖案の中央政治會議通過に関する新聞報道について

其ノ後大連積ミノ桐油當地ニ到着セル處大連海關ノ發行セル「カーゴーサチフイケイト」當地海關宛到着シ居ラサリ

往電第四九八號ニ關シ

本省 7月29日後着

第八八一號

廿八日ノ當地支那紙夕刊ハ中央政治會議ヲ通過シタル滿洲海關封鎖案ハ八月一日ヨリ實行セラル可ク右ノ結果歐米各國ヨリ大連營口安東ノ各港ヲ經テ滿洲ニ輸入サルル貨物ニ對シテハ上海海關ニ於テ運輸稅ヲ代理徵收スヘク若シ關稅ヲ納付セサル者ハ海關ニ於テ抑留シ其運送ヲ許サス又滿洲ニ運送サルル土貨ニ對シテモ上海又ハ其他ノ各港ニ於テ出港ノ際關稅徵收ヲナスヘク當地海關ニテハ封鎖後ノ處置ニ付準備中ナルカ滿洲向貨物ニシテ關稅納付ヲ爲ササル者ニハ出港證ヲ發セサル旨報セリ

公使ヘ轉報シ、北平、奉天、長春、安東、營口、天津、青島、漢口、廣東、南京、關東廳へ轉電セリ

653 昭和7年7月30日 在上海村井總領事より
内田外務大臣宛(電報)

輸出入貨物に五分の附加税賦課などの海關告示について

上海 7月30日後発
本省 7月30日後着

中國が滿州海關封鎖措置に出た場合の滿州國側対抗策について

(一)附加税ノ拂戻ハ正稅拂戻ノ手續ニ依ル
北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、廣東、關東廳ニ轉電シ、堀内書記官ニ轉報セリ

ヲ課ス

(二)水災附加税免除ノ貨物ハ右附加税ヲ免ス
(三)保稅貨物ニ關シテハ保稅期間ノ延長ヲ許サス其ノ輸入申告書カ八月一日若ハ其以後ニ作ラレタルモノニハ附加税ヲ課ス

往電第八七八號ニ關シ
當地海關ハ二十九日附ヲ以テ左ノ通告示セリ
(一)八月一日ヨリ明年七月三十一日ニ至ル期間ニ於テ申告セラレタル貨物ニ對シ輸出入稅トモ其ノ五分ノ附加税〔レヴエニユー、サータツクス〕ヲ課ス

第八八五號

滿洲國當局ニ付テ確メタル處遇般ノ海關長會議ニ於テハ格別纏リタル對策ハ決定セサリシモ其後ニ於ケル南京側ノ空氣ニ鑑ミ大橋ハ源田ト協議ノ結果若シ南京側カ滿洲海關ヲ封鎖スルカ如キ措置ニ出ツル場合ハ(一)支那本土行及支那本土ヨリノ貨物ニ對シ輸出入稅ヲ課シ(二)天津其他ノ地方ニ「ジャンク」ノ密輸入貿易ニ依リ支那側ヲ苦シム(三)南京側カ日本ニ對スル報復手段トシテ日本品ニ自由課稅其他ノ措置ニ出ツル場合ハ滿洲國ハ支那本土ノ貨物ニ對シ特殊ノ輸入稅ヲ課シ或ハ輸入ヲ禁止スル等ノ報復手段ヲ講スヘク目下折角研究中ナリトノ事ナリ

支、南京、北平、奉天、關東長官ニ轉電セリ

655 昭和7年8月1日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

上海へ轉報アリ度シ

中國政府の關稅增徵実施に関する報道と日本本

656 昭和7年8月2日 在上海村井總領事より
内田外務大臣宛(電報)

奢侈品に対する関税増徴案の議会通過について

commodities) 二分五厘増

第八九四號

上海 8月2日後発
本省 8月2日後着

北平、南京へ轉電シ支へ轉報セリ

一日南京發路透ハ押收セラレタル滿洲關稅收入填補ノ爲宋子文ノ提案セル奢侈品ニ對スル增稅案(年額約二千萬兩ノ增收見込ナリト)ハ既ニ立法院會議ヲ通過シ八月一日ヨリ實施ノ豫定ナリシモ洛陽ヨリノ指令ヲ待ツ關係上延期サルルニ至レルカ近々實施セラルヘク增稅率大体左ノ通ナル旨報セリ

人絹、稅番一〇四一擔ニ付一五海關金單位增
印度藍、稅番四六一一擔ニ付二海關金單位增
絹製品、稅番一一六 從價二割五分增
生糸、稅番一〇五 從價三割增
染料、稅番四四五 從價一割增
藥品、稅番四四四 從價五分增
玩具、稅番六五四 從價一割七分五厘增
酒類、稅番三八四 從價三割增

657 昭和7年8月2日 在中國堀内臨時代理公使より
内田外務大臣宛(電報)
満州移出入品への課税など宋子文主張の対日
報復手段には中国内部にも反対意見ありとの
唐有壬の談話について

上海 8月2日後発
本省 8月2日後着

第一一〇七號

往電第一一〇四號ニ關シ

支那側ニ於テ南京發閣下宛電報第五四〇號ノ報復手段ヲ執ルコトハ宋子文ガ輿論ニ押ヘラレテ強ク主張シ居ル所ナルモ之ニ對シテハ部内ニ相當反対アリ汪精衛ニ於テモ餘り乘氣ナラサル模様ナルコトハ一日夜本官カ汪ノ秘書唐有壬(慶應理財科卒業、汪ノ秘書トシテ主ナル相談相手タリ最近ノ日本事情特ニ經濟關係ヲ熱心ニ研究シ居リ充分理解アル

658 昭和7年8月2日 在南京上村總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

奢侈品輸入税増徴に際しては予告期間を設定
しないとの張閩務處長の内話について

南京 8月2日後発
本省 8月3日前着

第五四八號(至急、極秘)

關務處長張福運上海ヨリ來京セルニ付一日會見シ輸入稅引上問題ノ真相ニ付尋ねタル處張ハ本官限リノ含ミトシテ左ノ通説明セリ

一、財政部ハ滿洲海關ノ稅收差押及一般不景氣ニ依ル稅收不足ヲ補填スル爲奢侈品ニ對スル關稅引上ヲ計畫シ右案ハ目下立法院ニテ審議中ナルカ多分茲一、三日中ニハ公布ノ上即日實施セラルヘシ(右ニ對シ本官ヨリ相當ノ豫告期間設置ノ必要ヲ力説セルカ張ハ政府ノ會議ニ於テ豫告期間ヲ設置セサルコトニ決定セルニ付今更如何トモシ難シトノ一點張リニテ結局話シ纏マラサリシ次第ナリ)

上海へ轉報シ、北平、長春、南京へ轉電セリ

前記稅番中ニ掲記セラレサル上記種類ノ商品(unlisted commodities) 二分五厘増

關機高第一〇一七六號

661 昭和7年8月6日

林閔東序警務局長より
有田外務次官他宛青島における綿糸布輸入関税引上げの風聞に
ついて

北平、長春、奉天、南京、關東長官ニ轉電セリ

新聞ニハ何等斯ル報道ナシハ五日南京路透トシテ往電第

一一一號ノ記事ノ次ニ財政部秘書(Chin Wei Chingトア
リ多分陳尉青ナルヘシ)ハ滿洲海關收入ノ損失ハ最近ノ稅
率一部引上ニ依リ填補シ得ラルルノミナラス封鎖ヲ實行ス
ルモ日本ハ大連經由ニテ自由ニ滿洲ニ輸出入シ得ヘク之ニ
對シ打擊ヲ與ヘ得サル事情アルニ鑑ミ多分右計畫ハ實現セ
サルヘシト語レル旨報シ居レリ

第一一二號 滿洲海關閉鎖問題ニ關シ六日ノ「チャイナ、プレス」(他ノ

新聞ニハ何等斯ル報道ナシハ五日南京路透トシテ往電第

一一一號ノ記事ノ次ニ財政部秘書(Chin Wei Chingトア
リ多分陳尉青ナルヘシ)ハ滿洲海關收入ノ損失ハ最近ノ稅
率一部引上ニ依リ填補シ得ラルルノミナラス封鎖ヲ實行ス
ルモ日本ハ大連經由ニテ自由ニ滿洲ニ輸出入シ得ヘク之ニ
對シ打擊ヲ與ヘ得サル事情アルニ鑑ミ多分右計畫ハ實現セ
サルヘシト語レル旨報シ居レリ

ついて

上海 8月6日後發
本省 8月6日後着昭和七年八月六日
拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿
青島總領事殿關東廳警務局長
關東廳警務局長
關東廳警務局長

青島綿糸布輸入關稅引上說

在支本邦紡績ハ滿洲事變及上海事變等ニ著シキ打擊ヲ蒙リ
上海ノ如キハ操業不可能ニ陥リ全工場ヲ閉鎖スルノ憂目ニ
逢着シタルカ事件ノ一段落ニヨリ這般來漸ク操業ヲ開始シ
タル模様ナルモ支那往年ノ排日思想ハ事變勃發以來益々熾
烈ヲ加ヘ支那内地ヘノ販賣激減シ來リタル處ヨリ上海ヨリ
滿洲ニ進出ヲ計畫シツツアリトノコトナルカ一方唯一支那
内地ノ販路ヲ失ヒタル日本内地斯業者モ販路轉換策考究ノ
結果青島歐洲ニ向ケ尙滿洲國建設ニ件ヒ滿洲進出計畫モ
着々進捗シツツアル由ニ付滿洲綿糸布界ノ將來ハ大ニ期待
サレ居レルモ其結果必然的ニ來ルモノハ需給問題ニ在ル處
ヨリ海外輸出ヲ計ラサルヘカラサルノ商狀ヲ呈スルモノナ
ルカ最近大連商工會議所ヘノ情報ニ依レハ各方面ヨリ輸入

(8月11日接受)

有ルモ煙草ハ含ミ居ラス、藥品、玩具及遊藝品並ニ輸入
稅率中ニ特ニ分類セサル品目(稅番六四七)ニテ右ノ内
酒、生糸ハ三割、藥品ハ五分、其他ハ二分五厘乃至一割
ノ引上ト記憶ス(尙本官ヨリ絹織物中ニハ日支關稅協定
ニ依リ稅率ノ協定セラレタルモノ有リト注意ヲ促セル處
張ハ右協定ニハ充分留意セル處ニシテ協定稅率ヲ有スル
モノハ勿論今回ノ引上ヨリ除外スル旨述ヘタリ)
公使、北平、奉天、長春、天津、青島、濟南、汕頭、漢口、
長沙、廣東、香港、福州、芝罘、蘇州、廈門、九江、蕪湖、
宜昌、關東長官ヘ轉電セリ

659 昭和7年8月4日

在上海村井總領事より
内田外務大臣宛(電報)

奢侈品への新輸入稅率につき追加報告

第八九六號 往電第八九四號ニ關シ
當地海關ハ三日附ヲ以テ新稅率ハ(三十四項目)八月四日及

660 昭和7年8月6日 在中國堀内臨時代理公使より
内田外務大臣宛(電報)

満州海關封鎖は実現の見込みなしとの報道に

堀内書記官ニ轉報セリ
轉電先北平、奉天、長春、天津、青島、漢口、南京、廣東、
關東廳

稅番	品目	單從價	舊價	新價	稅
一〇七	綿糸ト撫糸トノ 交合セ品	一斤ニ付	無地、交海關金單位 四二	三%	稅
一〇八	「レース」糸	一斤ニ付	無地、交海關金單位 四一	三%	稅
一〇九	綿莫大小類	一斤ニ付	無地、交海關金單位 四五	三%	稅
一一〇	綿綿交織	一斤ニ付	無地、交海關金單位 五五	三%	稅
一一一	綿染色	一斤ニ付	無地、交海關金單位 七八〇	三%	稅
一一二	綿布製品	一斤ニ付	無地、交海關金單位 七八〇	三%	稅
一一三	綿綿交織	一斤ニ付	無地、交海關金單位 二七海關金單位	三%	稅
一一四	綿染色	一斤ニ付	無地、交海關金單位 四一	三%	稅
一一五	日本酒	一「ピク ル」ニ付	樽詰八海關金單位 二五海關金單位	三%	稅
一一六	日本酒	一「ピク ル」ニ付	樽詰八海關金單位 二五海關金單位	三%	稅

其ノ以後ノ貨物ニ對シ適用(同日迄ノ稅金未納貨物ヲ含ム)
セラルヘキ旨告示セルカ新増稅品ハ既報ノ外重ナルモノ左
ノ通(委細郵報)

シツツアル青島ニ於テハ自國綿糸布ノ發展ヲ圖ル見地ヨリ

關稅障壁ヲ企圖シ綿糸布輸入關稅ノ引上ヲ斷行スヘク協議ヲ進メ居レリト若シ之カ斷行ヲ見ンカ輸出先各方面ニ多大ノ衝動ヲ與フルモノト見ラレ居レリ御参考迄

以上

662 昭和7年8月8日 在長春田中總領事代理より

内田外務大臣宛(電報)

中國の輸入關稅引上げに滿州國は同調せずと

の源田財政部稅務司長の談話について

長春 8月8日後発

本省 8月9日前着

本官發奉天宛電報

第四七八號

電話問合ニ係ル支那ノ輸入關稅引上ニ對スル滿洲國ノ態度

ニ付源田ニ聞質シタル處滿洲國ハ既ニ支那本土ヨリ分離シ全ク獨自ノ立場ニアルヲ以テ將來ハ茲ニ約シ得サルモ差當リ支那本土ニ倣フテ直ニ之カ引上ヲ爲スカ如キ事ハ考ヘ居

ラストノコトナリ

大臣、支、南京へ轉電セリ

滿州國政府の對中國輸出入關稅設定に関する

理由書および關稅制度改正案の送付について

663 昭和7年9月10日 在長春田中總領事代理より内田外

別電一 九月十日発在長春田中總領事代理より内田外

務大臣宛第五八九号

右改正案

二 九月十日發在長春田中總領事代理より内田外

務大臣宛第五九〇号

長春 9月10日後発

本省 9月10日後着

第五八八號

本官發駐滿全權宛電報

第三七號

大橋ヨリ

滿洲國財政部ニ於テハ別電第三八號ノ理由ニ依リ別電第三九號ノ通り日本ノ滿洲國承認ヲ待ツテ直ニ滿洲國ト支那間ノ輸出入品ヲ他ノ外國トノ間ノモノト同様外國品トシテ之ニ課稅スルコトトシ其旨承認ノ日附ヲ以テ宣言ヲ發シ且ツ右ニ關聯シ承認ト同時ニ大連關稅徵收署ヲ滿洲國稅關ト改メ福本ヲ右稅關長ニ任命スルコトニ決定シタルカ過日森島領事ニ委託シタル關東州ニ關スル交換公文モ急速實現ノ要アリ思考スルニ付右至急實現促進方御配慮アリタシ別電ト共ニ關東長官、奉天ニ轉報アリタシ

本電別電ト共ニ大臣、公使、北平へ轉電セリ

(別電一)

長春 9月10日後発

本省 9月11日前着

第五八九號

本官發駐滿全權宛電報

第三八號(極秘別電)

滿洲國ハ其ノ建國當初ニ於テ急激ナル通商上ノ變動ヲ避ケ併セテ對外關係ヲ圓満ニ誘導センカ爲滿洲國ノ對外通商關

係ハ差當り從來ノ制度ヲ其ノ儘踏襲スルコトヲ中外ニ聲明シ支那トノ關係ニ付テモ何等ノ變革ヲ加フルコトナクシテ今日ニ及ヘリ然レ共右ハ一時ノ機宜ノ措置ニシテ之ヲ以テ滿洲國自ラ其ノ關稅自主權ヲ制限シタルニ非サルハ言ヲ俟タス今ヤ翻テ惟フニ苟モ滿洲國既ニ國ヲ建テ其ノ關稅自主權ヲ行使スルニ當リ支那ニ對シ通商航海上現行ノ如キ特待遇ヲ以テ臨ムニ於テハ滿洲國ハ尙支那ノ一屬邦タルノ觀アリ是レ當國ノ體面上忍フ能ハサル處ナルノミナラス近キ將來滿洲國カ他ノ諸外國ト通商條約ヲ締結スル場合諸外國ハ必スヤ滿洲國ニ對シ其ノ最惠國待遇ヲ要求スルハ當然ニシテ斯ノ如ク列(國)ノ要求ヲ現狀ノ儘ニ於テ容認スルニ於テハ滿洲國ノ財政ノ基礎ヲ覆ヘシ國內產業ノ振興ヲ期スルコト不可能ニシテ國運ノ伸長ヲ阻ムハ必然ノ結果ナリト云ハサルヘカラス

ノ國際的ニ承認セラルルノ日モ目睫ノ間ニ迫リタリ此ノ機
會ヲ措イテ再ヒ之ヲ斷行スルノ好機ナシ即チ緊急閣議ニ則
リ本件ニ關スル國策ノ決定ヲ仰ク次第ナリ

(別電二)

長春 9月10日後發
本省 9月10日後着

本官發駐滿全權宛電報
第五九〇號

第三九號(極秘)

別電

對支那輸出入並ニ船舶ニ對スル課稅制度其ノ他左記ノ如ク
改ム

一、滿洲國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ支那ニ仕向クル物ニ對シ
テハ現行稅率ニ依ル輸出稅ヲ課ス
二、支那ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ滿洲國ニ輸入スル物品ニ對
シテハ現行稅ニ依ル輸入稅ヲ課ス
三、噸稅ノ賦課ニ付テハ支那ニ於テ發給セラレタル噸稅納稅
濟證書ハ滿洲國ニ於テハ其ノ效力ヲ有セサルモノトス

四、滿洲國諸省ト支那諸省間ノ內水航行權ハ之ヲ認メス支那
ニ於テ發給セラレタル內水航行免狀ハ滿洲國ニ於テハ其
ノ效力ヲ有セサルモノトス

五、以上改正ハ大同元年九月二十四日(宣言ノ日ヨリ十日後)
ヨリ之ヲ實施ス但シ實施期限前ニ支那以外ノ港ヲ荷主ニ

於テ善意ニ荷出シ支那ノ港ニ於テ輸入稅ヲ納入シタル後
實施期以後滿洲國ノ港ニ輸入セラルヘキ荷物ニ付テハ荷

主ニ不當ノ損ヲ蒙ラシメサル様相當ノ考慮ヲ爲スコト尙

右ニ關聯シ同日ヨリ山海關ニ營口稅關分館ヲ設置シ徵稅
ヲ開始ス

664 昭和7年9月14日 在安東笠原領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

朝鮮銀行取扱い海關收入中の日本側供託金返

還要求に対する同行の払戻し拒否について

665 昭和7年9月15日 在長春田中總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)
本官發駐滿全權宛電報
第一九八號

本官發駐滿全權宛電報

大臣、支、北平、長春へ轉電シ間島、哈爾賓、牛莊、關東
長官へ暗送セリ

665 昭和7年9月15日 在長春田中總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国外交部總長の对中国輸出入關稅設定に

関する声明書発電について

別電 九月十五日發在長春田中總領事代理より内田
外務大臣宛第六〇八号

右声明書

付記 八月二日、通商局作成

「日本國及滿洲國間ノ關稅問題考察」

長春 9月15日後發
本省 9月16日前着

スヘキモノナリトノ意嚮ナル處此際當事者ヘノ直接引渡ニ
拘泥スル時ハ話合ノ逆轉ヲ來ス虞モアリタルニ依リ右ニ纏
メ置キタル次第ナリ尙松原海關長ハ右預金ハ滿洲國カ接收
シタルモノニシテ同國ハ中國時代ノ出來事ニ遡り返還スヘ
キヤ否ヤヲ決スヘキ立場ニ非スト主張シ居レル處松原ニ對
シテハ猶懇談スル所存ナルモ財政部ハ同人ニ對シ引渡方至
急訓令セシムル方早手廻ナルヤニ存セラルルニ付右御取計
相成度シ

大使ヨリ奉天へ轉報アリタシ

武藤大使ヨリ
關稅改正ニ關スル長春發本使宛電報第三九號ニ關シ滿洲國
ハ十五日外交部長ノ名ヲ以テ別電第六〇八號ノ通聲明書ヲ
「メーズ」南京外交部在東京及北平各國大公使在滿外國領事

聯盟事務總長宛發電シタル旨議定書公表ト同時ニ外交部ヨリ發表セリ

別電公表ノ次第ハ安東、營口、哈爾賓、問島、南京、天津、青島、廣東、香港、福州、廈門、汕頭、漢口、九江、濟南ニ轉電セリ

支、北平、奉天、關東長官へ轉電セリ

(別電)

長春 9月15日後發
本省 9月16日前着

第六〇八號

滿洲國ハ其ノ建國當初二於テ諸外國トノ關稅並ニ通商航海關係ニテハ當分ノ中從來ノ制度其ノ儘ヲ踏襲スヘキコトヲ中外ニ聲明シ今日迄之ヲ實行シ來レリ

然ルニ滿洲國ハ其ノ後新興國ノ名實ヲ整備シツツアルノミナラス日本國ニ於テモ右ノ事實ヲ認メ之ヲ承認スルニ至リタル今日關稅並ニ通商航海關係ニ於テ中華民國ヲ内國ト同一ニ取扱フカ如キハ其ノ儘之ヲ放置スル能ハス

茲ニ於テ滿洲國ハ今回關稅並ニ通商航海關係ニ關シ中華民

四、中華民國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ滿洲國ニ輸入スル物品ニ對シテハ現行稅率ニ依リ輸入稅ヲ課ス
三、噸稅ノ賦課ニ付テハ中華民國ニ於テ發給セラレタル噸稅納稅濟證書ハ滿洲國ニ於テハ其ノ效力ヲ有セサルモノトス
二、中華民國諸港ト中華民國間ノ內水航行權ハ之ヲ認メス中華民國ニ於テ發給セラレタル內水航行免狀ハ滿洲國ニ於テ其ノ効力ヲ有セサルモノトス
五、右實施ノ爲山海關ノ他必要ノ地點ニ稅關ヲ設置シ徵稅ヲ開始ス滿洲國ハ此ノ變革ニ依リ中外商民ニ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルコトヲ避クルカ爲本聲明ノ日ヨリ相當ノ猶豫期間ヲ置キテ之ヲ實施スルコトシタルカ尙右實施ノ日以前ニ荷主ニ於テ善意ニ中華民國以外ノ港ヨリ積出シ

中華民國諸港ニ於テ輸入稅ヲ徵收セラレ實施ノ日以後ニ於テ滿洲國諸港ニ到着スル貨物ニ付テハ本聲明ノ適用上不當ノ損害ヲ與ヘサル様相當ノ考慮ヲ爲スノ用意アリ
右聲明ス

大同元年九月十五日

外交部總長 謝介石

(付記)

日本國及滿洲國間ノ關稅問題考察(通商局案)

(昭和七、八、一)

滿洲新國家承認二件ヒ日本國及滿洲國間ノ關稅問題ヲ如何ニ處理スヘキヤノ問題ニ關シ(1)關稅同盟案(2)稅率協定案(3)滿洲國ノ稅率制定ニ關與スルノ案及(4)滿鮮陸境關稅案等アリ右各案ノ利害得失ヲ攻究スルニ大略左ノ通

第一、關稅同盟案

日滿兩國間ニ關稅同盟ヲ締結シ日滿間ノ貨物ノ流通ヲ全然自由トナシ唯日滿間ノ經濟關係力將來完全ナル調整ヲ見ルニ至ル迄ノ間日本内地ノ產業保護ノ爲ニ滿洲產品ノ輸入ヲ適宜制限シ得ルノ權利ヲ我方ニ留保シ置クノ案ア

(2)關稅同盟ニ因リ我國ノ生產品ヲ無稅ニテ滿洲國內ニ輸

リ右ニ依ルトキハ

(1)我カ輸出品ハ滿洲ノ廣大ナル地域ニ於テ殆ト獨占的市場ヲ獲得スヘク

(2)滿洲ヨリ我工業原料ヲ無稅(現在ハ滿洲側ニ於テ從價三分ヨリ七分五厘程度ノ輸出稅ヲ課ス)ニテ内地ニ輸入スルコトヲ得ヘク、更ニ

(3)關稅同盟ノ結果ハ日滿間ノ政治經濟關係ヲ緊密ナラシムヘシ
等ノ利益アレトモ他方ニ於テ

(1)滿洲ノ對外貿易ヲ見ルニ昭和五年ニ於テ滿洲ト諸外國トノ輸出入總額ハ五億一百萬海關兩ニシテ右ノ中日本ノ貿易額ハ二億七千九百萬海關兩ニ達シ即チ總額ノ半以上ヲ占メ居レリ(昭和四年ニ於テハ總輸出入額五億五千五百萬海關兩中日本トノ貿易額ハ三億五百萬海關兩ニシテ即チ總額ノ六割ニ近シ)故ニ日本トノ關稅同盟ニ依リ日滿間ノ輸出入稅ヲ全然撤廢スルトキハ滿洲國ハ其主要財源タル關稅收入ノ過半ヲ喪失スル結果トナルヘシ

入シ得ルコトスルハ各國側ヨリ見レハ石油、卷煙草、或種ノ毛織物、特殊ノ機械類等特別ノ事情アル貨物ヲ除キ各國商品ハ我國生產品ノ爲ニ滿洲市場ヨリ全然驅逐セラル結果トナルヲ以テ是等ノ諸國ハ右ヲ以テ満洲國併合ノ前提ナリトシ機會均等主義等ヲ持出シ我國ニ抗議シ來ルヘク現下ノ國際關係ヲ悪化スル虞アリ

(3) 尚關稅同盟ノ結果滿洲國產品カ無稅ニテ我國ニ輸入セラルコトハ我國ト諸外國トノ通商條約關係上何等支障ナキヤノ問題アリ通商條約ノ最惠國條款ハ關稅同盟ニ及ハストナスコト現在ニ於ケル通說ト認メラルモ

我國トノ通商條約ニ於テ關稅同盟カ最惠國約款ノ適用ヨリ除外セラルコトヲ明定セサル諸外國中ニハ通商條約違反ヲ理由トシテ抗議シ來ル向ナキヲ保セス
(4) 更ニ之ヲ我カ對滿經濟政策上ヨリ觀ルニ滿洲ハ今後ト雖モ大体ニ於テ依然其ノ農業國原料國タル形態ヲ持續シ工業製品ノ供給ハ主トシテ之ヲ我國ニ仰クコトトシ以テ兩者有無相通スルヲ本則トスヘキモノト思考セラル處日滿間ノ完全ナル經濟調整ヲ見ルニ先チ漫然關稅同盟ヲ締結スルニ於テハ假令我方ニ輸入制限ノ權利

トト爲サハ可ナルヘシ

此案ニ付テハ第一案ニ於ケルカ如ク機會均等主義ノ問題生スルコトナク滿洲新國家ヲ形式上尊重セル點ニ於テ諸外國ノ氣受モ宜敷カルヘキモ其ノ缺點トスル所ハイ、第三國品ノ均霑ヲ阻止シ得ル協定品目ノ選擇困難ナルコト

口、滿洲國ヨリ我國ニ輸入セラル貨物カ多ク原料ニ屬シ從ツテ我現行關稅率表ニ於テ無稅若ハ極メテ低稅率ノモノナル爲日滿關稅協定ニ於テ互惠ノ實質ヲ具備シ得サルノ憾アルコト
ハ、假令体裁ノミニテモ互惠國協定ヲ締結スルトスルモ我方ニ於テ果シテ相當多數品目ノ滿洲產物ニ對シ稅率ノ拘束ヲ約シ得ヘキヤ疑問ナルコト等ノ缺點アリ又本案ニ依ル場合我工業品ノ對滿進出可能程度カ前述關稅同盟案ニ比シ劣ル所アルヘキハ勿論ナリ

第三、滿洲國ノ稅率制定ニ關與スル案

日滿間ニ稅率協定ヲナスコトナク而モ事實上略々之ト同一ノ目的ヲ達スル手段トシテ滿洲國ノ關稅率表等ノ制定

ヲ留保スルトスルモ尙自然滿洲國ニ於ケル新規工業勃興ノ氣運ヲ助長スルコトトナルヘク惹テハ經濟問題ニ起因スル日滿間ノ紛爭ヲ惹起シ其ノ結果憂慮スヘキモノアルヘシト思考セラル

第二、稅率協定案

滿洲國トノ間ニ關稅率ノ協定ヲナスノ案ニ付考究スルニ(1)我國ノ對滿輸出品中ノ主要ナルモノ例ハ小麥粉(昭和五年輸出額四、〇六〇千圓、以下同斷)水產物(一、七二六)砂糖(三、六八九)綿織物(三一、一〇五)綿製品(三、七一三)綿糸(一、五一七)紙類(三、四九二)鐵製品(一、五九三)機械類(五、一五七)等ノ中ヨリ事實上外國品ノ均霑シ得サルモノ及均霑スルモ差支ナキモノヲ選擇シテ輸入稅ノ引下ヶ若ハ据置ヲ約セシメ

(2) 他方ニ於テ滿洲國ヨリ我國ヘノ主要輸入品タル大豆(三六、六一九)其他ノ豆類(七、九五七)穀物、種子及粉類(一〇、六二三)皮類(六五七)油脂蠟及其製品(一、二三三)石炭(二一、〇二五)銑鐵(七、四一〇)木材(六七一)越(三、〇四四)豆糟(五七、六六七)等ノ中ヨリ適宜品目ヲ選ヒテ輸入稅ノ引下乃至無稅据置ヲ約スルコ

ニ當リ裏面ヨリ我案ヲ提示シ之ヲ採用セシムルコトハ有力ナル一方案タリ本案ニ於テハ左ノ二方法ヲ考ヘ得ヘシイ、現行ノ支那關稅表中我方ニ不利益ナルモノヲ改訂セシム
ロ、舊時ノ七種差等稅率ヲ其儘施行セシム
右ノ内(イ)ノ方法ニ依リ多數ニ亘ル本邦關係品目ノ稅率ヲ改訂セシムルトキハ諸外國ヨリ種々ノ非難アルヘク旁々多數品目ニ付改訂セシムル場合ニハ本邦品ノ利益ヲ充分考慮シアル舊七種差等稅率ヲ大体其ノ儘施行セシムル方得策ナルヘシ(此ノ場合滿洲國ノ稅收ハ現行稅率ニ比シ多少ノ收入減トナル)

第四、滿鮮陸境關稅問題

滿洲國トノ間ニ大正二年ノ鮮滿國境通過貨物關稅輕減取極ヲ復活シ且ツ之ヲ現在ノ狀態ニ適合スルヤウ改訂スルコト必要ナルヘシ而シテ右改訂ニ關シテハ

(1) 舊取極ニ於テハ輸出入稅共ニ一律ニ三分ノ一減ナリシモ新取極ニ於テハ現在ノ滿洲國稅率ヲ考慮ニ入レ輕減率ニ二乃至三ノ段階^(階カ)設クルコト必要ナルヘク
(2) 双務的ニ朝鮮側ニ於テ輸入稅引下ヲナスノ案ニ付テモ

考慮スルノ要アルヘシ

右ニ付滿洲國側ニ於テ陸境通過貨物ニ對シ關稅ノ輕減ヲ

爲スハ華府條約ノ支那關稅海陸同一率ノ規定ニ反スルコ

トナキヤノ問題ヲ生スヘキモ右ニ對シテハ華府條約ハ直

ニ滿洲國ニ適用セラルヘキモノニアラサルコトヲ理由ト

シテ反駁スルノ途アルヘク又朝鮮側ニ於テ輸入稅ノ輕減ヲ

ヲナスハ我國ト諸外國トノ通商條約上稍問題ナルモ右ニ

關シテハ各國ニ對シ適宜説明スルヲ得ヘシ

第五、結論

依之觀是日滿間ノ關稅問題トシテハ前記第一、第四協定
稅率及陸境輕減率ヲ作ルコトヲ方針トシテ調整ヲ計ルト
共ニ滿洲國ヲシテ第三ノ七種差等稅率ヲ基礎トセル新關
稅率ノ制定ヲ爲サシムル様措置スルコト適當ト認メラル

666 昭和7年9月17日 在中國有吉公使より

内田外務大臣宛(電報)

滿州國の中國向け貨物證明書は滿州海關獨立

後も發給繼續が貿易上有利との意見具申

~~~~~

C・ヲ發給シ支那側ノ出様如何ニ依リ之ヲ停止スルコト當  
方面ニ於ケル邦人ノ利益保護上寧口實際的ナリト存セラル  
右ハ當方面本邦當業者ノ要望シ居ル處ニモ有之、滿洲國側  
ニ於テ出來得ル限り右様措置スル様御配慮ヲ煩ハシ度ク何  
分ノ儀御同示ヲ請フ

大臣、北平、天津、青島、漢口、南京、廣東、關東長官へ  
轉電シ、上海へ轉報セリ

667 昭和7年9月21日 在滿州國武藤大使より

内田外務大臣宛(電報)

滿州國の中國向け貨物證明書發給は滿州海關

獨立に扞格しないのでその繼續を同國側に申

入れ方長春總領事代理へ依頼について

奉天 9月21日後發

本省 9月21日後着

第九六號

本官發長春宛電報

第一三號

在支公使來電第三號ニ關シ

第一一八五號 本省 9月17日後着

閣下發大臣宛電報第六〇七號ニ關シ

本官發駐滿全權宛電報

第三號

滿洲國稅關ニ於テハ關稅自主權ノ結果支那ヲ外國ト見做シ  
九月廿五日以後Cargo certificateノ發給ヲ停止スル旨布  
告シタル趣大連汽船ヨリ支那へ來ル貨物カ九月廿五日以後  
C・C・C有セサルコトト爲ラハ、支那側トシテハ之ヲ以  
テ内國品ノ證明無キ貨物トシテ便宜外國品ニ對スル關稅ヲ  
適用ストノロ實ノ下ニ之ヲ外國品トシテ待遇シ而モ形式上  
滿洲國ヲ外國ト見做スコトヲ避ケ得ル次第ナレハ滿洲國稅  
關ノC・C・發給停止ハ即チ必然的ニ支那側ノ對滿貿易ニ  
對スル外國稅率ノ適用ヲ誘致スル危險アルヤニ認メラル  
ニ付滿洲國側ニ於テハ廿五日以後モ差當リ從來通りC・

668 昭和7年9月21日 在中國有吉公使より

内田外務大臣宛(電報)

在中国邦人紡績業者保護のため滿州國關稅賦

課に際しては一定期間の猶予措置が必要との

意見具申

上 海 9月21日後発  
本 省 9月21日後着

第一一九四號

満洲國カ支那トノ貿易ニ對スル關稅ヲ改正スルニ至リタル結果邦人ノ在支企業カ重大ナル打擊ヲ受クルノ事實ハ之ヲ看過スル能ハス就中支邦人ノ紡績業ニ付テハ此ノ際特別ノ考慮ヲ拂フ必要アリト認メラル即チ支那ニ於ケル邦人ノ一般生業、貿易、海運、銀行等各種ノ經濟活動ハ紡績業ノ發展ニ依頼スルモノ頗ル多ク從テ在支紡績業ハ即チ在支那人<sup>(邦カ)</sup>經濟活動ノ中樞ヲ爲スモノナレハ之力維持發展ヲ助長スルコトハ純對支經濟利益ノ確保進展上極メテ必要ナリト思考ス然ルニ之等紡績業ハ過去一箇年ニ亘ル排日ノ爲支那市場ノ大部分ヲ失ヒ一部ハ外國ニ、大部分ハ滿洲ニ販路ヲ求メ辛フシテ事業ヲ繼續シ來リタルモノナルカ今回滿洲國關稅改正ノ結果一躍シテ從來ニ比シ五倍乃至八倍ノ重稅ヲ課セラルニ於テハ滿洲ノ販路ハ全然杜絕シ爲ニ事業ノ繼續困難トナル實狀ニアリ

就テハ右事情御考量ノ上滿洲國側ニ對シ必要ナル交渉ヲ進メラル様特ニ御配慮ヲ請フ

駐滿全權ヨリ奉天ニ轉報アリ度シ

駐滿全權、北平、天津、青島、漢口、南京ニ轉電シ、上海ニ轉報セリ

669 昭和7年9月22日 在中國有吉公使より

内田外務大臣宛(電報)

大連出荷貨物のうち閻東州内差立て分に対する

税関の査証料供託要求について

上 海 9月22日後発  
本 省 9月22日後着

第一二〇〇號

閣下發關東長官宛電報第五二號ニ關シ

上海稅關ニ於テハ安東牛莊等ヨリ輸入スル貨物ニ對シテハ査證料ヲ徵收セス大連ヨリ輸入スルモノノ内奥地發送ノモノハ前記牛莊ノモノト同様ニ取扱ヒ關東州内又ハ外國差立

尤モ之等紡績業ハ從來滿洲ニ於テ輸入稅ハ課セラレス日本製品トノ競爭上有利ナル地位ニ在リタルモノナルカ。今回ノ關稅改正ニ依リ單ニ左ノ如キ優(越)ナル地位ヲ失ヒ關稅上同一ノ待遇ヲ受クルニ至レルモノナレハ尙之ト充分ニ競争シ得ヘキヤニモ考ヘラル處最近ニ於テ在支紡績ハ工賃ノ騰貴(今日ハ名目上ニ於テモ大體日本ノ工賃ト同様ナリ)原棉輸入稅及統稅ノ附加等ノ爲生產條件ニ於テハ寧ロ日本製品ニ比シ却テ不利ノ地位ニ立ツノミナラス過去十年間ニ頻發セル激烈ナル排日ノ爲著シク經營難ニ陥リ居ル際ナレハ今直ニ關稅上從來ノ特典ヲ剝奪セラルニ於テハ滿洲國及支那側ニ於ケル統稅ノ二重課徵ト相俟テ輸出杜絶ノ外ナキ狀態ニアリ

以上ノ事情ニ鑑ミ滿洲國側ニ於テ今回關稅引上ノ實行ニ際シ在支邦人紡績カ新事態ニ適應スル準備ヲ整ヘ得ル様少クトモ一定期間ノ猶豫ヲ與フルコトハ本事業ノ維持上絕對ニ必要ナリト存セラル尙右ノ如キ猶豫期間ヲ設クルモ在支外國人及支那人紡績ハ假令之カ特典ニ均霑スルモ從來ノ經驗ヨリ見テ俄ニ對滿輸出ヲ始ムルカ如キコトナシトノ當業者ノ見込ナリ

670 昭和7年9月22日 在長春田中總領事代理より

内田外務大臣宛(電報)

中国向け貨物證明書發給継続を滿洲國が承諾

について

長 春 9月22日後発  
本 省 9月22日後着

第六三三號

本官發全權宛電報

第六一號

貴電第一三號ニ關シ  
從來ノ通CCノ發給方源田司長ト懇談シタル處同人ハ之ヲ承諾シ直ニ各稅關長ニ右様措置方電訓セリ

支ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

大臣、支、北平、天津、青島、漢口、南京、廣東、關東長官へ轉電セリ

671 昭和7年9月27日

内田外務大臣より  
在英國松平大使  
在米國齋藤臨時代理大使（宛電報）

## 滿州中國間移動貨物徵稅辦法に関する上海海關告示について

本省 9月27日後6時50分發

合第一九一一號

上海海關ハ九月二十四日附告示ヲ以テ左記趣旨ノ告示ヲ爲セリ尚其他ノ支那本部各海關ニ於テモ同一告示ヲ為セル模様ナリ括弧内ハ當方ニテ附シタル註ナリ

(一) 日本ノ滿洲占領ニ依リ滿洲諸港ニ於ケル支那ノ合法的關稅收入ヲ徵收スルコト能ハサルニ付九月二十五日以降更ニ告示スル迄哈爾濱、牛莊、安東、龍井村ノ四稅關ヲ閉鎖シ本來是等滿洲各港ニテ徵收スヘキ關稅ハ之ヲ暫行的ニ他ノ支那諸港ニ於テ徵收スヘシ

(甲) 大連ヲ除ク滿洲諸港向ケ積出貨物ニ對スル課稅左ノ如(乙) 大連ヲ除ク滿洲諸港ヨリノ到着貨物ニ對スル課稅左ノ如

- (1) 支那貨物、從來通り(轉口稅)  
(2) 工場製品、從來通り(統稅又ハ單一稅)  
(3) 保稅貨物ニハ積出港ニテ輸入稅ヲ課ス(從來ハ滿洲到着港ニテ徵收)
- シ  
(1) 輸入稅納付濟モノ、從來通り(無稅)  
(2) 輸入稅未納ノ積換貨物ニハ積換港ニテ輸出稅ヲ課ス(入カ)  
(4) 外國貨物

(欄外記入)

(乙) 大連ヲ除ク滿洲諸港ヨリノ到着貨物ニ對スル課稅左ノ如

(1) 支那貨物ニハ轉口稅(從來ハ滿洲各港ニテ徵收)通

(2) 工場製品ニハ滿洲諸港ニテ納付スヘキ工場製品稅(統稅又ハ單一稅)

(3) 外國貨物ニハ輸入稅ヲ課ス(從來ハ滿洲各港ニテ徵收)  
(4) 日本官憲カ大連海關ニ於ケル大連海關協定ニ基ク任務ノ遂行ヲ許ササルニ依リ大連發着貨物ノ發送地(provenance)及到達地(destination)ヲ確ムル能ハス仍

テ大連發着貨物ニ對シ左ノ通課稅ス

(甲) 大連向ケ積出貨物

(イ) 支那貨物ニハ輸出稅(從來ハ關東州向ノミニ輸出稅、滿洲奥地向ニハ轉口稅)

(ロ) 工場製品ニハ最終目的地ノ何レタルヲ問ハス工場製

品稅(統稅又ハ單一稅)ヲ課ス(從來ハ關東州向ハ無稅、滿洲奥地向ニハ統稅又ハ單一稅)

(ハ) 外國貨物ハ前記(一)ノ甲ノ外國貨物ノ場合ト同シ

(乙) 大連ヨリノ到着貨物  
總テ輸入稅ヲ課ス(從來ハ關東州生產品ノミニ輸入稅、

滿洲奥地ヨリ來ルモノニハ大連ニテ轉口稅ヲ課シタルノミ)

(三) 上記各項課稅ノ場合別ニ歲入附加稅及水災附加稅ヲ徵收ス

滿洲諸港(大連ヲ含ム)向貨物ニ關スル稅關書類ハ積出人

ニ交付ス又此等諸港ニテ發給シタル稅關書類ハ九月二十日以降之ヲ認メス外國ト滿洲諸港(大連ヲ含ム)トノ間ノ通シ貨物(輸出入共)ニシテ支那諸港ニテ搭載船舶ヨリ卸ササルモノニハ課稅セス

672

昭和7年9月27日

在中国橫竹大使館商務參事官より  
内田外務大臣宛(電報)

(欄外記入)

輸入稅ノ誤ナルコト後ニ判斷セルモ特ニ訂正方電報セサルコトトセリ

英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府ニ轉電アリ度

ぼす影響の觀測について

上 海 9月27日後發  
本 省 9月27日後發

商第七〇號  
今回國民政府ノ滿洲國稅關封鎖ニ依リ支那ヨリ滿洲國ニ輸出入セラル貨物ハ二重課稅ヲ負擔スル事トナリ貿易商並ニ生產工業者ハ非常ナル打擊ヲ蒙ル譯ナル處就在支那人民業ハ日貨排斥ノ爲製品ノ賣行不如意ニテ目下七割ノ運

轉ヲ爲シ其ノ二割五分ヲ滿洲國ニ仕向ケ居タル折柄トテ今後ハ益々苦境ニ陥ルモノト見ラレ居レリ

尤モ綿絲布市場ハ滿洲國ノ輸入稅徵收ヲ見越シテ過般來綿絲六千梱綿布二、三百梱ヲ積出シタル後テモアリ相場保合、麥粉亦無稅ニテ響カス又當地主要輸入品中大豆ハ本品力滿洲國以外ヨリ輸移入セラレサルノ故ヲ以テ一般當業者ハ輸入稅ノ徵收無キヲ豫想シ居ル處尙或ル一種ニハ國民政府ハ

課稅セサル意嚮ナリトモ傳ヘラレ相場ハ出廻期ヲ目捷ニ控ヘ居ル關係ニモアルカダリ下リ歩調、豆糟亦同様唯石炭ハ

上海電力會社其ノ他ニ相當ノ契約有リ稅金、買手負擔交渉ハ困難テアリ目先開平其ノ他支那炭トノ競爭上撫順炭ノ支那輸入ハ減少スルモノト思ハル

要スルニ當市場ハ此事有ルヲ豫期シ見越輸出カ相當行ハレタル後ニテ相場ニハ左迄影響無キモ輸出入品ノ漸次減少スルハ豫想ニ難カラス尙從來上海經由大連仕向貨物ハ當地全取扱貨物數量ノ三割見當ト謂ハレ居ル處之カ直接大連仕向トナレハ支那沿岸航路就航船ノ積荷ハ今後減退スルモノト觀ラレ居レリ

673 昭和7年9月29日 在長春田中總領事代理より  
在中国邦人紡績業者の滿州國關稅賦課に際する猶予期間要望方陳情に対し同國政府拒絶について

長春 9月29日後発 本省 9月29日後着

#### 第六五八號

本官發駐滿全權宛電報

#### 第八〇號

大臣發閣下宛電報第一一二號ニ關シ

船津等紡績關係者一行ハ廿七日當地著後滿洲國當局ヲ歷訪シテ委曲陳情スル處有リ本官モ亦大橋及財政部當局ニ既契約品ナリトモ特ニ考慮方極力交渉シタルモ滿洲國側ノ意向ハ本件ハ獨リ在支邦人紡績ノミニ止マラス他ノ方面ヨリモ種々勝手ノ申出有ル際ナルヲ以テ紡績側ノ陳情ヲ聽キ入ルル場合ハ他ニモ同様ノ考慮ヲ拂ハサルヘカラサル結果トナリ問題ハ愈紛糾シテ取締付カサル次第ナルヲ以テ紡績側ニハ同情スヘキモ此ノ際主義ヲ一貫シテ處理スルヨリ外ニ致

シ方無ク又政府當局トシテモ一旦決定シタル方針ヲ今後六ヶ月（紡績ノ既約品ハ約六ヶ月ナリ）モ事實上實施シ得サ

ル事トモナラハ當局ノ權威ニモ懸ル次第ナルノミナラス目下各國ハ日滿關係ニ付テ鮮カラス猜疑ノ眼ヲ向ケ居ル際ナルヲ以テ邦人當業者ノ陳情ニ依リ滿洲國カ何等カノ融通便

法ヲ容認スル場合ハ外國側ヲ非常ニ刺戟シ日本ハ滿洲ノopen doorヲ此ノ手ニ依リ事實上「プロツク」スルモノト誤解セシムル惧アル等政策的見地ヨリスルモ不得策ナルニ付既定方針ヲ以テ進ム外無シト主張シ最早說得ノ餘地無キヤニ認メラル

奉天へ轉報アリタシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ  
大臣、支へ轉電セリ

武藤 関東長官より  
内田 外務大臣宛

#### 滿州國承認に伴い中國向け移出の撫順・煙台

炭に対する新旧税率差額の供託中止について

關機外第三七五號

（10月5日接受）

昭和七年九月二十九日

關東長官

武藤 信義〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

撫順煙臺炭輸出稅率及納付手續ニ關スル件

本件ニ關シテハ客年八月三十一日附關機外第一五一號ノ二拙信ヲ以テ申進致置候處中華民國向移出ノ撫順煙臺炭ニ對スル新舊稅率ノ差額ノ供託ハ大連海關接收當時既ニ之ヲ廢止セムトノ議アリタルカ南支ニ於ケル報復手段ヲ緩和スル趣旨ニテ滿洲國側ヨリ進ンテ從來ト異ナリタル措置ヲ執ルコトヲ避ケントノ意見アリタルヲ以テ打合ノ結果依然供託ヲ繼續シ居リタルカ今回滿洲國承認ニ伴ヒ本月二十五日以後滿洲國稅關カ中華民國海關ト絶縁スルコトトナリタル結果右供託ハ事實上不可能且無意味トナリタルヲ以テ二十五日以後ハ之ヲ廢止シ度旨滿鐵總裁ヨリ伺出アリタル處滿洲國稅關ニ於テ從來通ノ手續ヲ繼續スルコトハ中華民國ヲ外國トシテ取扱フ滿洲國ノ態度ト矛盾スヘキヲ以テ本件供託ノ廢止ハ當然ノコトト思考セラレ候ニ付滿鐵總裁ニ對シ右供託ヲ廢止シ差支ナキ旨回答致置候條此段報告申進候

敬具

本信寫送付先

駐滿全權大使、在支公使

奉天、長春各總領事

牛莊、安東各領事

675 昭和7年10月1日 在滿州國武藤大使より  
内田外務大臣宛(電報)

朝鮮銀行預金中の日本側供託金返還問題に關する満州國財政部との協議結果について

奉天 10月1日後発  
本省 10月1日後着

第一四二號 本使發安東宛電報第五號

長春發本使宛電報第七四號ニ關シ

米澤書記官長春ニ出張ノ序ヲ以テ三十日財政部當局ト談合シタル處本件鮮銀預金ノ處分方ニ付安東稅關長ヨリ當事者

ヘノ返還ニ反對ノ意見ヲ具申シ來リ居ル實情ナルノミナラ

(一) 滿電ニ於テ本件供託金ノ返還ヲ要求セラルル根據ヲ明示セル書類ヲ添へ滿洲國ニ對スル交涉方全權ニ願ヒ出テ全權ヨリ滿洲國ニ對シ正式ニ申出ツル事

(二) 滿洲國海關獨立後ノ新義州送電ニ對シ滿洲國トシテ輸出稅ヲ課スルヤ否ヤハ前記(一)ノ供託金ト切離シ新ナル問題トシテ考慮スル事

(三) (二)ノ問題決定ヲ見ルニ至ル迄ハ滿電ニ於テ引續キ從來通

リ抗議附ニテ供託スル事  
外務大臣、長春へ轉電セリ

676 昭和7年10月1日 在滿州國武藤大使より  
内田外務大臣宛(電報)

在中国邦人紡績業者のため關稅賦課に猶予期間

要望に対する満州國政府の拒絶理由について

奉天 10月1日後発  
本省 10月1日後着

第一四四號

在支公使發閣下宛電報第一一九四號ニ關シ

松島ヲシテ滿洲國當局ニ右電報ノ趣旨ヲ繕々敷衍説明シ綿絲ニ對シ猶豫期間供與方談合セシメタル處該當局ハ(一)右ノ

取扱ヲ爲ストキハ滿洲カ特ニ日本企業者ニ對シ利益ヲ計リタリトノ非難ヲ受クヘク(二)今後多數ノ新法規制定ニ當リ此種例外ヲ認メ居リテハ新規制度ノ確立ヲ期シ難シ(三)又當業者ハ滿洲國獨立殊ニ海關接收ノ際既ニ今日有ルヘキヲ豫期シタルヘキ苦ニテ當業者ノ苦痛ハ充分諒トスルモ大局上ヨリシテ本件特別ノ取扱ヲ爲シ難キ旨答ヘタル趣ナリ次テ船

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

677 昭和7年10月8日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

當口出荷の撫順炭に対する中國海關の輸入稅

賦課方針とその対応策について

七 中國關稅問題

ス森島領事ニ對シ財政部ヨリ當事者ヘノ返還ニ付稅關長ニ訓令ス可キ旨ノ諒解ヲ與ヘタリト謂フハ事實ニ相違シ殊ニ本件供託金ノ大部分ヲ占ムル滿電ノ新義州送電ニ對スル輸出稅ノ返還ヲ滿洲國トシテ該送電ニ課稅ス可キヤ否ヤノ根本問題解決セサル限り輕々シク處置シ得可キニ非スト述へ

從來ノ行懸及財政部當局トシテ當方ニ與ヘ來レル言質ニ反スル主張ヲ爲シタルニ付米澤ヨリ本件供託金ノ性質及問題ノ經過ニ付中國銀行保管ノ海關收入上海送金差止メ當時ヨリノ事情ヲ詳述シ反省ヲ求ムルト共ニ事態ニ適應スル解決策ニ付懇談シタル結果結局左ノ通り話合ナリタル趣ナリ就テハ貴地滿電支店ヲシテ至急左記(一)ノ必要書類ヲ當方ニ提出スル様取計相成度シ

本件供託金ノ返還ヲ要求セラルル根據ヲ明示セル書類ヲ添へ滿洲國ニ對スル交涉方全權ニ願ヒ出テ全權ヨリ滿洲國ニ對シ正式ニ申出ツル事

(二) 滿洲國海關獨立後ノ新義州送電ニ對シ滿洲國トシテ輸出稅ヲ課スルヤ否ヤハ前記(一)ノ供託金ト切離シ新ナル問題トシテ考慮スル事

(三) (二)ノ問題決定ヲ見ルニ至ル迄ハ滿電ニ於テ引續キ從來通

本件ノ如キ事項ヲ今後トモ今次ノ如ク俄カニ實施セラルルモノ(ナル)ニ於テハ獨リ紡績業者ト謂ハス本邦當業者ノ利害ニ多大ノ影響ヲ及ホスヘキニ付將來斯ノ如キコト無カラシムル爲此ノ際本邦當業者ニ於テ何等カノ對案ヲ廻ラシタシト考ヘ居ル旨述ヘタル趣ナリ御參考迄  
支、北平、天津、青島、漢口、南京、長春へ轉電シ奉天へ  
轉報セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

第一二三三一號

石射總領事發閣下宛電報第一〇八一號ニ關シ

goods タル事實上ノ證明困難ナルヲ利用シ外國炭トシテ

ノ輸入税ヲ課スヘキ意向有リトノ聞込ミモアル處十日牛

莊ヨリ當地ニ入港ノ大連汽船山東丸ハ水力會社ニ納付ス

ヘキ四千噸ノ石炭ヲ積載シ居リ八日稅關側ハ船會社ノ請

求ニ依リ從來通り over side permit (舷側積卸許可書)ヲ

與ヘタルカ該許可書ノ表面ニハ特ニ cargo from New-

chang coal on manifesto ト記載シアリ稅關係員ハ船舶

入港後書類ヲ見タル上ニテ通關手續ヲ許スヘント述ヘタ

ル趣ニテ滿鐵事務所ヨリ右通關ニ對スル心得方伺ヒ出テ

タルニ付不取敢<sub>レ</sub> native goods メシテ轉口稅ヲ課セラルル場合ニハ之ヲ納ムヘク<sub>レ</sub> 外國品トシテ輸入稅ヲ課セ

ラル場合ハ牛莊稅關證明書ノ外滿鐵ノ原產地證明、積

荷證明、契約書B、L等撫順炭タル事ヲ證明スヘキ私的

書類ヲ提出シテ native goods ノ主張ヲ爲シ稅關之ヲ聞

カサル場合ニハ更メテ總領事館側ヨリ交渉スヘント申聞

ケ置キタルカ(萬一右交渉手間取り船舶及水力會社等之

力迷惑ニ堪エサル場合ニハ稅額ヲ deposit セシムル積リ

ナリ

ノ尙本件ニ關シ大連海關協定ニ對スル我方ノ見解及支那側

鑛ニ關スル契約及細則ヲ主張セサル事ト致度キ處御異存

有ラハ前記諸點ト共ニ折返シ御回示ヲ請フ

滿、北平、天津、芝罘、青島、漢口、南京、廣東へ轉電シ

上海へ轉報セリ

678 昭和7年10月10日 在天津桑島總領事より 内田外務大臣宛(電報)

天津海關は大連出荷貨物を外國品として輸入

稅徵收か<sub>レ</sub>領事查証要求の意向」<sub>レ</sub>も國民政

府と交渉方要請について

天津 10月10日後発 本省 10月10日後着

第四〇一號

本官發支宛電報

第二九四號

當地海關ニテハ大連ヨリ輸入スル貨物ハ關東州製品タルト

否トヲ問ハス悉ク外國品ト看做シ輸入稅ヲ課シ且領事查證

ヲモ要求シ查證無キモノハ規定ニ依リ目下ハ五金單位ヲ代

徵シ居ルモ近ク十又ハ十五金單位ニ增徵スル趣ノ處申ス迄

モ無ク關東州及滿洲ニハ支那側查證機關無之從テ查證ヲ得

ルコト不可能ナルニ付當地稅關ニ對シ何等力辦法(ヲ)講セ

ラレ度旨交渉シタルモ當地ニ於テハ如何トモ取計ヒ兼ヌル

旨申シ居ルニ付テハ或ハ大連支那人商業會議所ノ如キモノ

ヲシテ查證事務ヲ代行セシムルカ又ハ已ムヲ得スハ日本官

憲ノ原產地證明ヲ以テ查證ニ代ヘ當地ニ於テハ一率五金單

位ヲ代徵セシムル等然ルヘキ方法ヲ講セシムル様南京當局

ニ御交渉相成度シ

(轉電先脫?)

滿ヨリ營口、安東へ轉電アリタシ

訂正報

十月十日天津來電第四〇一號末尾「轉電先脫?」ノ箇所へ左ノ通播入ス

入稅賦課ヲ主張シ居ル趣ニテ一面三井側ヲシテ水力會社等ノ技術的其他ノ點ヨリノ證明ヲ準備セシムルト共ニ當方ヨリ總稅務司側ニ交渉シ居ル處「メイズ」ハ目下旅行中ニテ

(來週初メ歸任ノ筈)要領ヲ得ス南京ニ在ル宋部長ト打合セ

ノ結果一十一日頃同部長ト會談スル豫定ナリ

尙各方面ヨリ確メタル結果本件ニ對スル支那側ノ態度强硬ニシテ我方主張貫徹頗ル困難ト認メ居レリ  
大臣、滿、南京、北平、牛莊、關東長官へ轉電シ、上海へ轉報セリ

680 昭和7年10月19日 在奉天中野總領事代理より

内田外務大臣宛

### 滿州國關稅賦課の當業者に及ぼす影響について

(接受日不明)

昭和七年十月十九日

在奉天總領事代理 中野 高一

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

昭和七年十月十五日(アマ)附

武藤全權大使宛往信寫送付

件名

### 一、日本側當業者ニ及ホセル影響

滿支貿易上日本側關係ニシテ其打擊ノ最タルモノハ輸入ニ於ケル在華本邦紡績製品タル綿糸布輸出ニ於ケル撫順炭ニシテ殊ニ從來滿洲ニ於テ最モ有利ノ地位ニ置カレタル上海製品ハ今後外國品トシテ取扱ハルルコトトナリ頗ル不利ノ地位ニ置カル處其反面ニ於テ今日迄兎角在華製品ニ壓迫サレ來タレル地元製品ノ進展ハ勿論日本内地製品ノ輸入ハ益々促進セラルヘキ傾向ヲ訓致セリ尤モ當右何等御参考迄報告申進ス

### 記

二、滿洲國關稅賦課ノ當業者ニ及ホセル影響報告ノ件

普通第六八號 昭和七年十月十九日

在滿帝國特派全權大使 武藤 信義殿

滿洲國關稅賦課ノ當業者ニ及ホセル影響報告ノ件

滿洲海關接收ニ伴フ對支輸出入品並船舶ニ對スル課稅ニ關スル滿洲國ノ聲明並右徵稅開始ニ依ル當地當業者ニ及ホセル影響ニ關シ關係方面ニ付調查セル結果概要左ノ如シ

右何等御参考迄報告申進ス

三、滿洲側當業者ニ及ホセル影響

地方當面ノ輸入貿易ニ在ツテハ過渡期ニ於ケル一時的現象ト見ラルヘキモ最近滿洲國關吏ニシテ當業者ノ申告ヲ無視スルカ如キ法外ノ評價ニ依ル課稅ヲナス爲從來ノ約三倍以上ノ重稅ニ惱ムコトトナリ當業者中ニハ奉天着値段ノ採算スラ付カススクテハ日滿貿易振興上重大ナル脅威ヲ與フルモノナリトノ非難ヲ釀シ滿洲國側ノ公平ナル取扱ヒヲ要望スルノ聲漸ヤク高ク之カ緩和匡正方ニ關シ具体的運動ヲ計畫中ノ模様ナリ

### 三、滿洲側當業者ニ及ホセル影響

支那本部トノ貿易上大變革機ニ際會シタルコトトテ其打擊ノ深酷ナルハ當然ナルカ右影響概況ヲ摘記スレハ次ノ如シ

イ、特產物  
高粱、玉蜀黍、粟等ノ奉山線ニヨル關內輸送量ハ從來相當ノ額ニ達スルモ目下尙出廻り運タル狀況ナルヲ以テ影響ノ程度判明セサルモ最盛期ニ到ラハ其打擊甚

ダナルモノアルヘシト豫想サレ居レリ

口、獸毛皮類

當地ニ出廻ル獸毛皮類ハ外商側ノ取扱ヒニ係リ主トシ

### ホ、輸入品

支那本部ヨリ當地方ニ輸入セラル主ナルモノハ天津方面ヨリ蓆類、毡靴類、棉花、紙類、乾菓類、綿布類、人絹製品類、皮帶類、化粧品、裝飾品上海方面ヨリ絹織物、文房具類、運動具、紙類、書籍

等ニシテ事變前ニ於テハ日貨排斥、國貨提倡運動ノ爲常

ニ相當大量ノ輸入ヲ見タル處輸入稅賦課ニヨリ本邦製品ニ比シ高價トナリ取引額減退シ漸次本邦品ニ轉換ノ傾向ナリ

本信寫送附先 大臣、公使、上海商務參事官

681 昭和7年10月20日 在中國有吉公使より

内田外務大臣宛(電報)

### 撫順炭に対する輸入稅賦課問題に關し宋子文の回答について

上 海 10月20日後発  
本 省 10月20日後着

<sup>(1)</sup> 第一二五六號 貴電第四六三號ニ關シ

本件ニ關シ當方ニ於ケル交渉ハ青島宛電報第一二號ノ如ク總稅務司處側(往電第一二三三一號ノ事情ニテ「メーズ」ノ「パーソナル、セクレタリー」タル Wright 一時事務ヲ代理シ居レリ)ニ於テハ先ツ「メーズ」トノ話合ヲ希望シ居タルモ當業者ニ於テ本件解決ヲ急キ居ル事情モアリ二十日堀内ヲシ

テ宋子文ニ申入レシメタル結果左ノ通り

一、堀内ヨリ撫順炭ニ對シ稅關側ノ取扱ヲ説明シタル上同シク營口ヨリ輸入セラル大豆、豆油其他ノ滿洲產品ハ稅關當局ニ於テ牛莊發給ノ證據書類ヲ認メサルモ「サーカムスタンシヤル、エビデンス」ニ依ル內國品トシテ轉口稅ヲ課スル石炭ハ撫順炭タルコト證明ヲ俟ツ迄モナク明カニシテ

過去數年間ニ於ケル統計ニ依ルモ外國炭ノ滿洲ニ輸入セラレタルモノ極メテ少ナク又營(口)ヨリ外國炭ノ輸出セラレタルモノ皆無ナル事情而シテ撫順炭ハ大豆、豆油等ト同様「サーカムスタンシヤル、エビデンス」ニ依リ當然轉口稅ヲ課セラルヘキモノナルニ拘ハラス石炭ニ對シテノミ認定困難ナリトテ輸入稅ヲ課セムトスルハ了解ニ苦シム處ニシテ斯ノ如キ稅關ノ取扱ハ其ノ眞意ヲ別トシ少ナクトモ外見ニ於テハ殊更日本商人ニ對シ差別待遇ヲ爲スモノナリ

兩國關係ノ改善ヲ念トセラル貴部長ニ於テ(往電第一二四三號參照)之カ調整方ニ付御考慮ヲ願度ト述ヘタルニ對シ宋子文ハ日本ハ滿洲ノ獨(立)ヲ承認シタル今日滿洲ヨリ支那ニ輸入セラルル物品ニ對シ輸入稅ヲ課セラルルコトハ須磨書記官ニモ御話シタル通ナルカ今日ノ事態ニ於テ弱者タル支那側ヨリ兩國關係改善ノ爲何等ノ「ゼスチユア」ヲ爲スコトハ政府トシテ極メテ困難ナル事情ハ御承知ノ通ナレハ斯ノ如キ「ゼスチユア」ハ先ツ強者タル日本ヨリセラル事望マシク支那トシテハ之ニ對シ充分ニ酬ユル用意アリ從テ本問題ハ今日之ヲ提起セラレサルコトヲ望ムト述ヘタリ更ニ堀内ヨリ繰返シ考慮方ヲ說得シタルモ宋子文ハ日本ヨリ何分ノ「ゼスチユア」アリタル後ニ於テ改メテ之ヲ考慮スルコトハ出來得ヘシトテ容易ニ承引セサリキ

轉電及轉報先往電第一二五五號ノ通り

當然ナレハ斯ノ如キ瑣末ノ問題ヲ持出サレサル様希望スト  
述ヘタルニ付

二、堀内ヨリ本件ハ數字ヨリ見レハ大問題ナラサルカ如キモ之ヲ兩國關係ノ將來ヨリ觀レハ極メテ重大ナリ蓋シ日本トシテハ兩國關係ノ改善ニ付常ニ充分考慮シ居リ之カ實現方ニ付特ニ從來「ステーツマンシップ」ノ立場ヨリ兩國關係ノ調整ニ努力セラレタル貴部長ニ對シ申出テ尙充分ノ期待ヲ有シ居ルモノト信スル處、此ノ機微ナル時期ニ當リ恰モ日本商人ニ對シ差別待遇ヲ目的トスルカ如キ稅關ノ取扱ニ對シ貴部長ニ於テ適當ノ調整方法ヲ講セラレサルニ於テハ日本政府及國民ハ鮮カラス失望スヘキノミナラススノ如キ小問題カ日本國民ニ對シ如何ニ大ナル惡影響ヲ及ホスヘキヤハ滿洲事件突發直前ニ於ケル撫順炭及E、Cニ對スル課稅問題ヲ觀レハ貴部長ニ於テモ充分了解セラレ得ヘシ、加之本件稅關ノ告示ニハ滿洲諸港ニ於テ發給セラレタル一切ノ證據書類ヲ認メストアラハ例へハ到着地ニ於ケル日本領事ノ證明ニ依リ内國品タルコトヲ認定セシムル等  
何等主義上ノ問題ニ觸レス既ニ公布セラレタル法規ノ解釋ニ依リ本件調整ヲ計リ得ヘキ次第ト考ヘラルルヲ以テ兩國

682 昭和7年10月20日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

長春 10月24日後発  
本省 10月24日後着

撫順炭への輸入税賦課に対し輸入税供託による対処針につき請訓

上 海 10月20日後発  
本省 10月20日後着

往電第一二五七號  
第一二五六號ニ關シ

本件ニ關シ我方ノ希望ヲ認メシムルコトハ當分不可能ト認メラル處滿鐵、三井側等ニ於テハ輸入手續ヲ急キ居ル事情アルニ付差當り輸入税ヲ供託シテ手續ヲ完了セシムルヨリ外途ナシト存セラル處右ニテ御差支ナキヤ折返シ御回訓ヲ請フ

往電第一二五六號ノ通り轉電、轉報セリ

683 昭和7年10月24日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

木材の輸出關稅減免に関する滿州國政府との交渉経過について

(一)先ツ館員ヲ實業部ニ派シ滿洲國關稅政策實施前ニ於ケル財政部當局ノ政治的考慮不充分ナリシ爲今日本件ニ付實業部ヲ煩ハスノ餘儀ナキニ至レルコト遺憾ニ堪ヘサルモ全權大使ノ訓令ニ基クモノナル旨ヲ前提シ支那輸出關稅撤廢問題ノ經緯並之ニ對スル我方從前ノ態度及一九二七年壽府國通

際經濟會議ニ於テ採擇セラレタル勸告等ヲ引用シ本件解決方ヲ正式ニ申入レシメタル處實業部トシテハ問題ノ重大性ヲ充分ニ認識シ居ルヲ以テ兔モ角參考資料ノ出揃フヲ俟チ

關係方面ト聯絡ノ上貴意ニ副フ様何分ノ措置ニ出ツヘキ旨ヲ答ヘ極メテ好意的態度ヲ示セリ

(二)外交部ハ勿論民政部及實業部共前記關係各部聯合會議ニ於テ本件ノ解決ヲ計ルニ異存ナキモノノ如ク實業部ヨリ右開催方「イニシアチブ」ヲ取ル手筈ニナリ居ル模様ナリ尙

滿洲國官邊ノ一部ニ於テ我方カ本件ノ解決方ヲ飽迄強要スルニ於テハ滿洲國內政干涉ノ事實ヲ構成スルコトナキヤノ口吻ヲ洩ラス向モアル處右ニ對シテハ館員ヨリ我方トシテハ右ト關聯シテ此ノ際一般輸出稅ノ撤廢乃至遞減問題ヲ持出サントスル底意毫末モナキミナラス權利トシテ本件輸出稅ノ減免ヲ主張シ居ルニモアラス専ラ木材限り貴方ノ好意的考量ヲ期待シ交渉シ居ルモノナリ旁日滿兩國ノ親善關係ニ鑑ミ右ノ如キ言説ハ全然當ラサル旨應酬シ置ケリ

大臣、支、北平、安東ニ轉電セリ

第七二八號  
本官發滿宛電報

貴信各領機密第一〇號ニ關シ  
第一四二號

第七二八號  
本官發滿宛電報

長春 10月24日後発  
本省 10月24日後着

684 昭和7年10月26日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

木材の輸出關稅減免要望に対し滿州國財政部

は拒絕の意向について

長春 10月26日後発  
本省 10月27日前着

第七三八號  
本官發滿宛電報

第一五四號

往電第一四二號ニ關シ

滿洲國關係各部聯合會議不日開催セラルヘキ旨聞込ミタルニ依リ最モ難關ト認メラル財政部當局ヲ豫メ說得ノ要アリト思料シ二十六日本官源田及永井ヲ往訪シ冒頭電報ノ趣旨ヲ敷衍説明シタル上當業者ノ陳情ニ對シ充分好意的考慮ヲ拂ハレ度キ旨申入レタル處財政部當局ノ意見ハ依然強硬ニシテ獨リ木材ノミニ對シ輸出關稅ノ減免ヲ認ムル事ハ主義上容認シ難シトノ意嚮ナリシヲ以て種々懇談ノ末産業助成金又ハ地方稅ノ減免等ニ依リ當業者ノ窮状ヲ救フ案ヲ持出シタル處地方稅ノ減免ハ別個ノ問題ナルモ何等考慮ノ餘

地アルヤノ口吻ヲ洩ラシ居リタリ御参考迄

大臣、支、北平、安東へ轉電セリ

685 昭和7年10月28日

在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

當口出荷撫順炭に関し輸入税供託ならびに留保付輸入申告書提出により通関手続き完了に

ついて

上海 10月28日後発  
本省 10月28日後着

貴電第四六九號ニ關シ

第一二七五號

「メーズ」未タ歸滬セス當業者ニ於テ手續ヲ急キタルニ付  
稅關側ト話合ノ結果先ツ輸入者ヨリ稅關ニ對シ撫順炭ハ內國品トシテ輸入手續ヲ行フ可キモノナルモ右ニ付テハ目下兩國間ニ交渉中ニシテ取引上手續ヲ急クヲ以テ右交渉ノ結果ニ從フ條件ノ下ニ輸入稅額ヲ供託シテ手續ヲ行ヒ度キニ付承認アリ度旨書面ヲ出シ稅關ヨリ右ニ對スル同意書ヲ取り付ケタル上輸入者ニ於テ稅額ヲ供託シ更ニ稅關側ノ要求

「メーズ」未タ歸滬セス當業者ニ於テ手續ヲ急キタルニ付

稅關側ト話合ノ結果先ツ輸入者ヨリ稅關ニ對シ撫順炭ハ內國品トシテ輸入手續ヲ行フ可キモノナルモ右ニ付テハ目下

兩國間ニ交渉中ニシテ取引上手續ヲ急クヲ以テ右交渉ノ結果ニ從フ條件ノ下ニ輸入稅額ヲ供託シテ手續ヲ行ヒ度キニ付承認アリ度旨書面ヲ出シ稅關ヨリ右ニ對スル同意書ヲ取り付ケタル上輸入者ニ於テ稅額ヲ供託シ更ニ稅關側ノ要求

686 昭和7年10月29日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

當口出荷撫順炭も當口出荷分に準じた輸入手

続きを行なう方針について

上海 10月29日後発  
本省 10月29日後着

第一二八一號

往電第一二七五號ニ關シ

大連積出シ撫順炭ニ付テハ貴電第四六九號末段ノ次第モアリ營口積出シノ分ノ交渉トノ關係上滿鐵側ニ於テモ一時積

687 昭和7年11月2日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

大連出荷鞍山銑鐵の輸入税供託につき青島總領事代理に海關との交渉方要請について

上海 11月2日後発  
本省 11月3日前着

第一二八八號

本使發青島宛電報

第一二二號

本使發青島宛電報

第一二二號

七 中國問題

出シヲ差控ヘ居リタル處關東長官發閣下宛電報第一〇二號  
大連積出シ河南丸二十六日入港シ輸入者三菱支店ヨリ「オヴァーサイド、パーミット」ノ取付方ニ付伺出アリタルニ付冒頭往電營口積出シノ分輸入手續ニ準スルコトトシ稅關側ト打合ノ結果輸入稅相當額(外國(品)輸入ニ對シ本件許可ヲ得ルニハ輸入稅ノ一倍半ヲ供託スル規則ナリ)ヲ供託スル共ニ外國品トシテノ輸入申告ヲ提出シ且輸入者ヨリ稅關長ニ對シ書面ヲ以テ營口積ミノ分ノ輸入手續ノ場合ト同様我方ノ立場ヲ留保シテ本件許可ヲ取付クルコトトシリ(營口ノ分ニ對スル本件許可カ從來ノ取扱ト何等異ラサリシコト往電第一二三三號ノ通り)尤モ右手續ニ依ル石炭ハ二週間以内ニ納稅手續ヲ完了スルヲ要スル處此ノ場合稅關側ニ於テ輸入稅納付ヲ要求スルカ或ハ營口ノ分ト同様輸入稅ノ供託ヲ認ムルヤハ今ノ處意向不明ナルモ少クトモ「オヴァーサイド、パーミット」ヲ與フルニ際シ從來ト異ル手續ヲ要求シタルモ純粹ナル外國輸入品ト同様ノ手續ヲ要求セサリシ次第ナルカ右取扱振リハ大連積ノ分ニ對シテモ輸入稅供託ヲ主張スルノ根據トナルヘシト認メラル前電ノ通り轉電ス

スル外國品トシテノ輸入申告書(初メ内國品トシテ申告書ヲ出シタリ)ヲ提出スル際ハ「右申告書ノ提出ニ依リ前記輸入稅供託及本件交渉ニ關スル我方ノ立場ニ何等影響ヲ及ホスモノニ非サル」旨ヲ留保スル稅關長宛輸入者ノ書面ヲ添附スルコトトシ(稅關長ヨリ右ノ趣旨ニ同意ナル旨ノ書翰ヲ寄ス筈ナリ)山東丸ハ右ニ依リ廿七日輸入手續ヲ了セリ滿、北平、牛莊、天津、青島、漢口、南京、廣東、芝罘、關東長官へ轉電シ上海へ轉報セリ

大臣、滿、北平、芝罘、牛莊、天津、南京、漢口、廣東、  
關東長官へ轉電シ上海へ轉報セリ

688 昭和7年11月5日 在天津桑島總領事より

内田外務大臣宛(電報)

大連經由貨物を一律外國品扱いとし安東出荷

分にも輸入税賦課について

天 津 11月5日後発  
本 省 11月6日前着

第四三〇號 本官發公使宛電報

第三二七號

大臣宛拙電第四一〇號ニ關シ

今般當地海關ハ中央ヨリ工場製品及大臣宛貴電第一二五五  
號ノ品ハ哈爾賓、龍井村、安東或ハ營口ヨリ直接當地ニ來  
ルトキハ内地品トシテ取扱フモ大連積出ハ勿論 through  
cargo レ雖一度大連ニ寄港スルトキハ其ノ品ノ如何ニ拘ラ  
ス總テ cargo from Dairen トシ外國品トシテ取扱フヘキ

旨ノ回訓ニ接シタル趣ヲ以テ當地中吉洋行ハ今回約四百俵

ヘ轉電セリ

689 昭和7年11月9日 在青島堀(公一)總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

大連出荷鞍山銑鉄の輸入税供託に対する海關  
の拒否回答について

青 島 11月9日後発  
本 省 11月9日後着

第一九三號 本官發支宛電報

第九二號

往電第八九號ニ關シ

十一月五日大連丸ニテ大連ヨリ滿鐵積出シ鞍山銑鐵六〇噸

當地鴻恩公司宛着荷セルニ付貴電第一二號ノ趣旨ニ基キ海

關側ニ對シ本件課稅問題ハ舉テ中央ニ於ケル交渉ニ委セ輸

入稅供託ニテ通關方極力折衝シタルモ稅務司ハ大連以外ノ

滿洲諸港ヨリ來ル鞍山銑鐵二ハ輸入稅供託ヲ認ムヘキモ總

稅務司ヨリ大連ヨリ來ル總テノ貨物ハ輸入稅ヲ徵スヘキ旨

ノ洋紙ヲ冒頭拙電同様輸入セルニ對シ輸入稅ヲ課セントセ  
ルニ付館員ヨリ安東ヨリ through cargo トシテ來レル工場  
製品ニ對シ單ニ大連ニ立寄レルノ理由ヲ以テ cargo from  
Dairen トシ其ノ特典ヲ奪フノ不當ナル所以ヲ種々説示シ  
タル結果海關ヨリ更ニ中央ニ請訓セルモ理由ヲ附セス依然  
ヒ居レリ)館員ヨリ本件不當取扱ニ付テハ何レ中央ニ抗議  
シタルモ之ニ應セサリシニ依リ中吉洋行ヲシテ安東發大連  
經由 through cargo ヲ大連發當地向直航ノモノト區別シ之  
ヲ大連積出ト同様取扱ヒ工場製品稅ノ代リニ輸入稅ヲ課ス  
ルハ不當ナルニ付何レ中央ニ於ケル交渉解決迄輸入稅ヲ供  
託スヘキ旨ノ抗議附ニテ納稅セシムルコトトセルニ付貴方  
ニ於テ然ルヘク御交渉相成度シ

大臣宛往電第四一〇號關東廳へ轉電セリ

上海へ轉報アリ度シ

満ヨリ新京へ轉報アリ度シ

大臣、滿、北平、南京、安東、牛莊、青島、奉天、閔東廳

物ニ輸入稅供託ヲ認メタル事實ノ有無ニ拘ラス自分トシテ  
ハニニ對シ輸入稅ヲ賦課徵收スル外ナキ旨頑強ニ主張シ居  
リ此ノ上折衝スルモ先方ヲ納得セシムルコト至難ト認メラ  
ル就テハ一方當業者ニ對シテハ當方ヨリ何分ノ指示ヲ與フ  
ル迄一時貨物引取差控方申聞ケアルモ此ノ上ハ抗議附ニテ  
輸入稅ヲ納付セシムル外致方無キヤニ考ヘラル處右ニ關  
シ御意見アラハ御回示相煩ハシ度シ

大臣、滿、北平、芝罘、牛莊、天津、南京、漢口、廣東、

關東長官へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

690 昭和7年11月10日 在中國堀内臨時代理公使より  
内田外務大臣宛(電報)

撫順炭の内國品待遇は困難とのメーズ總稅務

同の談話について

上 海 11月10日後発  
本 省 11月11日前着

往電第一二五六號ニ關シ

十日本官「メーズ」ト會談撫順炭課稅問題ニ關スル宋子文トノ話合ノ大要ヲ説明シタル上既ニ宋子文ニ於テ本件ニ付後日ノ話合ヲ承諾シタル次第ナレハ I、G 二於テ撫順炭ヲ内國品トシテ取扱フ様御盡力願度シト述ヘタル處「メ」ハ溝洲ニ對スル支那側今回ノ關稅取扱ハ實ハ自分ノ意見カ多ク採用セラレタル結果ニシテ即チ稅關問題ハ報復ト云フカ如キ政治上ノ立場ヲ離レ専ラ通商ノ促進乃至商人ノ便宜ヲ主トスヘシトノ見地ヨリ溝洲ヨリノ輸入品ニ對シ全部輸入稅ヲ課スヘシトノ說ヲ排シ例へハ農產物ノ如ク溝洲品タルコトヲ容易ニ認定シ得ル品物ハ内國品(トシテ)取扱フコトトナリタル次第ナルカ之カ爲一般商人ハ勿論溝洲國トシテモ大ナル利益ヲ受ケ居ルモノナレハ日本側ニ於テモ溝洲國ヲ承認シ居ル以上右以上有利ノ取扱ヲ要求セラレサランコトヲ希望スト答ヘタルニ付本官ハ右 I、G ノ考ハ至極結構ニシテ敬服スル處ナルカ例へハ大豆ト同様ノ性質ヲ有スル石炭トノ間ニ差別待遇ヲ設クルカ爲日本ハ之ニ對シ多大ノ不滿ヲ有シ前記 I、G ノ好意ハ却テ日本人側ニ誤解ヲ與ヘ居ル現狀ナレハ(冒頭往電宋子文ニ對スル説明ヲ繰返シ)此ノ際石炭ニ就キテモ大豆同様ノ待遇ヲ與フルコトニ考慮セ

ラルルコト必要ナルヘク右ノ差別待遇カ除カルニ於テハ日本側ハ I、G ノ好意ヲ多トスヘシト述ヘタル處「メ」ハ從來關稅問題ニ對シテハ支那側ニ於テモ何等之ニ酬ヒラル處無ク常ニ支那側ヲ「イリテート」スルカ如キ措置ヲ取り居ル次第ナレハ本件ニ關シ御申入ノ如キ考慮ヲ爲スコトハ不可能ナリトテ容易ニ承服セス又本官ハ此ノ際本問題ノ根本的解決困難ナリトセハ少クトモ今後ニ於テ問題解決ノ餘地アルコトヲ明ニスルコト必要ナルカ之カ爲ニハ既ニ稅關側ニ於テハ營口積出ノ石炭ニ對シ輸入稅供託ヲ認メタル次第ナレハ大連積出ノ分ニ對シテモ供託ヲ許シ其他日本商人ノ利害關係ヲ有スル銑鐵及硫安等二、三ノ商品ニ對シ石炭同様ノ取扱ヲ許ササルコト極メテ機宜ノ措置ナルヘク右ニ付好意的考慮ヲ願度シト述ヘタル處「メ」ハ營口ノ分ニ供託ヲ認メタルハ既ニ支那側ニ於テ爲シ得ル限リヲ盡シタル譯ナレハ之レ以上大連ノ分ニモ特別待遇ヲ擴張スルハ不可能ナリトテ容易ニ聞入レス本官再三ノ說得ニ依リ免ニ角有吉公使歸任迄ノ間ニ更ニ考慮シ見ルヘシト述ヘタリ滿、北平、牛莊、天津、青島、漢口、南京、芝罘、廣東、關東廳へ轉電シ、上海へ轉報セリ

691 昭和 7 年 11 月 10 日 在中國境内臨時代理公使より  
内田外務大臣宛(電報)

大連出荷撫順炭に關し供託拒否のため輸入稅納付のほかなき旨意見具申

上 海 11 月 10 日後発  
本 省 11 月 10 日後着

第一三〇四號

往電第一三〇三號ニ關シ

大連積石炭ニ對シ輸入稅供託ヲ認メシマルコトハ差當リ不可能ニシテ今後更ニ交渉ヲ重ヌルモ我方希望達成方頗ル困難ト認メラル處往電第二二八一號河南丸ノ輸入稅ハ十二日(土曜)迄ニ納付スルヲ要シ之レヨリ遲ルルトキハ五日目ニ付五兩ノ過怠料ヲ要シ又各地共速ニ輸入手續ヲ必要トルモノモアルヘク四月大連積石炭ニ付テハ抗議附ニテ輸入稅ヲ納付スルヨリ外ナキヤニモ存セラル冒頭往電末段ノ次第モ有之如何措置スヘキヤ折返シ御回訓ヲ請フ

前電ノ通り轉電セリ

692 昭和 7 年 11 月 11 日 在上海石射總領事より  
内田外務大臣宛(電報)

大連出荷貨物すべてに対する輸入稅徵收など  
の海關告示について

上 海 11 月 11 日後発  
本 省 11 月 11 日後着

第一一八八號

往電第一〇八二號ニ關シ

當地海關ハ十日後ヲ以テ安東及牛莊ヨリ到着シ外國品ト看做サルル總テノ貨物並ニ大連ヨリ到着スル總テノ貨物ハ積換申告書又ハ租稅申告書ノ提出ノ有無ニ拘ハラス輸入稅ヲ徵收スヘキ旨告示セリ

公使ニ轉報シ全權、奉天、安東、牛莊、北平、天津、青島、漢口、南京、福州、廈門、廣東、關東廳へ轉電セリ

全權ヨリ新京へ轉報アリタシ

693 昭和 7 年 11 月 11 日 在中國境内臨時代理公使より  
内田外務大臣宛(電報)

大連出荷撫順炭への領事查証料は抗議付納付

のほかなき旨意見具申

上海 11月11日後発

本省 11月11日後着

第一三〇七號

上海發閣下宛電報第一一七一號ニ關シ

當地稅關ハ三井側ノ申入ニ對シ營口其他大連以外ノ滿洲國各港積出シ石炭ニ對シテハ領事查證料ノ供託ヲ認ム可キモ大連積ノモノニ對シテハ之ヲ認メ難ク右ハ到着港ニ於テ查證料ヲ支拂フ可キ旨回答越シタル趣ナルカ電第一三〇三號會議ノ節本官ハ「メイズ」ニ對シ領事查證ヲ要スルハ外國品ニ限ルモノナルカ滿洲ヨリ來ル物品ハ外國品タル事ヲ積極的ニ證明シ得サルモノナレハ之ニ對シ查證料ヲ要求スルハ查證規則ノ命スル所ニ非ス單ニ稅關側ノ手心ニ依ルモノト認メラルニ付貴官ノ裁量ニ依リ本件告示ノ改正方ヲ考量セラレ度シト述ヘタル處「メ」ハ往電第一三〇八號工場製品稅ノ問題同様書面ノ提出ヲ要求セリ本件モ輸入稅問題同様早急解決ハ困難ト思考セラルニ付取引ノ必要上大連以外ノモノニ對シテハ查證料ヲ供託シ大連積ノモノニ對シテハ抗議附ニテ納付スルノ外無シト思考セラル處右ニ

テ差支無キヤ至急御回訓ヲ請フ  
満、北平、牛莊、天津、青島、漢口、南京、廣東、芝罘、關東長官へ轉電セリ  
上海へ轉報セリ

694 昭和7年11月15日 在中國城内臨時代理公使より 内田外務大臣宛(電報)

營口出荷撫順炭の供託も否認となる見込みについて

上海 11月15日後発

本省 11月15日後着

第一三一九號  
往電第一三〇三號及往電第一三〇四號ニ關シ

十五日岸本ノ内話ニ依レハ總稅務司署側ニ於テハ曩ニ芝罘及漢口稅關長ヨリ撫順炭輸入取扱方ニ付請訓アリタルニ對シ(芝罘發閣下宛第二一一號及漢口宛電報第九九號)差當り輸入稅ノ供託ヲ認メシムルト共ニ問題トナリタル石炭ノ見本ヲ取セ技術部ヲシテ分析セシメタルカ其結果分析ニ依リテハ撫順タルコトヲ證明シ得ストノ報告有リタルヲ以テ

營口積ノ分ニ對シテモ供託ヲ許サス既ニ許シタル供託ヲ輸入稅ニ繰入方當該稅關長宛回訓スル様IGトノ話合ノ次第モアレ

ト議論起リ居リ岸本ニ於テ本官IGトノ話合ノ次第モアレハトテ注意シタルモ容易ニ納得セシメ難ク或ハ近ク右様回訓ノ運トナルヤモ測ラレストノ趣ナリ右ハ往電第一二五六號本件ニ對スル宋子文ノ態度ニ鑑ミ有リ得ヘキ事トモ存セ

ラルルニ付其場合ハ少クトモ營口積ノ分ニ對シ供託ヲ認メシムル様更ニIGト交渉ス可キ事勿論ナルモ先方ニ於テ財政部等ノ命令ヲ利用シテ聽入レサルニ於テハ差迫リタル今後ノ撫順炭輸入ニ差支ヲ來ス譯ナレハ之カ對策ニ付豫メ御考慮置キアリ度シ尙各地我方輸入者ニ於テ前記稅關側ノ申出ニ應セサル様手配濟ナリ

滿、北平、牛莊、天津、芝罘、青島、漢口、南京、廣東、  
關東長官(アマ)長官へ轉電セリ  
上海へ轉報セリ

695 昭和7年11月15日 在中國城内臨時代理公使より 内田外務大臣宛(電報)

當口出荷撫順炭への供託拒否に対し交渉妥結

第七六〇號

上海 11月21日後発  
本省 11月21日後着

十九日ノ民生報ハ最近某國(日本ヲ指スモノノ如シ)ハ支那ニ對シ多量ノ石炭ヲ投賣シ居レルカ其價格ハ本國ニ於テ一噸六元ノモノヲ支那迄輸送シ來リテ尙五元餘ニ過キサルモノスラ有リ一方支那炭ハ七、八元ナルヲ以テ此ノ儘ニ放任センカ支那炭ハ大ナル影響ヲ受クヘキニ付十八日實業、財政、鐵道各部ハ實業部ニ於テ國賣。救濟會議ヲ開キ討議ノ結果某國石炭ニ對シテハ支那炭ヨリ高價トナル様「ダンピング」稅ヲ課スル事ニ決定シ右課稅ニ關スル討議ヲ爲ス爲近ク財政部ハ「ダンピング」稅委員會ヲ組織スル事トナリタル旨報道シ居レリ御参考迄

奉天ヨリ満洲轉報アリタシ支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州へ轉電セリ

697 昭和7年11月21日 在上海石射總領事より 内田外務大臣宛(電報)

國產綿糸布保護のため輸入税率引上げにつき 上海市商會の行政院宛電請について

奉天ヨリ満洲轉報アリタシ支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州へ轉電セリ

冒頭往電ノ通轉電轉報セリ

697 昭和7年11月21日 在上海石射總領事より 内田外務大臣宛(電報)

國產綿糸布保護のため輸入税率引上げにつき 上海市商會の行政院宛電請について

698 昭和7年11月29日 在中國有吉公使より 内田外務大臣宛(電報)

撫順炭への輸入稅賦課中止を朝鮮銀行の海閥

698 昭和7年11月29日 在中國有吉公使より 内田外務大臣宛(電報)

撫順炭への輸入稅賦課中止を朝鮮銀行の海閥

収入上海送金問題の斡旋条件とし大連出荷分には供託容認を總稅務司に申入れについて

|     |          |
|-----|----------|
| 上 海 | 11月29日後發 |
| 本 省 | 11月29日後着 |

貴電第一三七一號

廿八日堀内ヲシテ「メーズ」ニ申入レセシメタル處

(一)堀内ヨリ本使東京ニ於テ充分盡力シタルモ滿洲側ニテハ本件稅收ハ滿洲國ニ歸屬スヘキモノニシテ之カ「リリース」ハ支那政府ト滿洲國乃至中央銀行トノ間ニ解決サルヘキ問題ナリトノ立場ヲ固持シ遂ニ說得スルヲ得サリシ次第ヲ説明シタル上堀内一個ノ考トシテハ此ノ上ハ支那側ヨリ先ツ何等カノ對償(例ヘハ撫順炭ノ輸入稅ヲ轉口稅ニ變更スル等)ヲ提供セサル限り斡旋ノ餘地ナシト思ハルト述ヘタル處「メ」ハ頻リニ滿洲國側ノ不法ヲ詰リ居タル上支那側ニ於テ右ノ如キ對價ヲ提供セハ本件稅收「リリース」ノ望アルヤト尋ねタルニ付堀内ヨリ右ハ單ニ斡旋ノ餘地アルノミニテ成否ハ何レトモ見込附カスト答ヘタル處「メ」ハ右貴官ノ考ハ一應宋子文ニ傳ヘテ「メ」自身ノ思付トシテ傳フ

ル様話合濟)其決定ヲ仰クコト致度シト言ヘルニ付堀内ヨリ「メ」ニ於テ宋部長カ之ヲ採用スル望アリト思ハルルヤト尋ねタルニ「メ」ハ殆ト望ナシト思ハルモ少クトモ其考慮ヲ求ムルコト必要ナリト言ヘリ

依テ堀内ヨリ自分トシテモ滿洲國側ノ友人ニ對シ個人的ニ本件稅收ノ「リリース」ニ付說得ニ努メ居ル次第ニテ成否ハ見据附カサルモ支那側ニ於テ少クトモ前記ノ如キ好意ヲ示サルル事斡旋ノ切掛ヲ得ル爲ニ必要ナリト認メ居ル次第ナレハ貴下ニ於テモ宋部長ヲ說得スル様セラレタシト述ヘ置キタリ

(二)次テ堀内ヨリ本件課稅問題ニ付更ニ宋部長ノ考慮ヲ求メラル好意ハ感謝スル次第ナルカ其決定ニ至ル迄大連積石炭ニ對シ輸入稅ノ供託ヲ認ムル様致度シ(現ニ大連ヨリ入港セル日本船ノ輸入手續ヲ差控ヘシメ居リ取引上不便ヲ忍ヒ居ル事情ヲ説明シ)ト述ヘタル處「メ」ハ大連積石炭ニ對シテハ政府ノ確定命令ナレハ右ハ自分ノ(脱)爲シ能ハサルナルカ營口積ノ分ニ對シテハ夫迄供託ヲ認メ差支無シト述ヘタルニ付堀内ヨリ(往電第一二一九號岸本內話ノ次第ニモ鑑ミ)營口ノ分ニ對スル供託ハ既ニ前回ノ話合ニ依リ

當地ノ絲光(シルケット)及綿織ノ兩同業公會ハ曩ニ明年五月日支關稅協定ノ滿期トナルニ伴ヒ國產綿絲布ノ保護ヲ行政院ニ請願中ナリシカ未タ何等ノ回答ニ接セサリシヤニテ今回上海市商會ハ前記兩同業公會ノ申出ニ依リ十九日附ヲ以テ國民政府ニ對シ左記要旨ノ電請ヲ爲シタル趣ナリ

民國十九年五月六日成立ノ日支關稅協定ノ附屬書甲號第一二三款(四ヲ除ク三款)ハ期限ノ滿了ト共ニ當然改正ノ要アルニ付兩同業公會ノ希望スル如ク輸入稅率ヲ引上ケ國產品ノ保護ニ資セラレ度ク尙稅率改正ノ際ハ公會側ヨリ代表ヲ派シ意見ヲ具申スル事ヲ許サレ度シ云々

往電第一二〇九號ニ關シ

確定的ノモノト認メ居ルモノナレハ之ハ問題トナラスト述  
ヘタルニ「メ」ハ本件ニ付テモ其後政府ニ請訓中ニシテ未  
タ供託ヲ確認セラレ居ル次第ニ非スト答ヘ堀内ヨリ往電第  
一三〇三號ノ趣旨ヲ繰返シ營口積ノ供託ヲ認ムヘキ旨說得  
ニ努メタルモ「メ」ハ前言ヲ繰返シタルノミナリ  
滿、北平、牛莊、天津、青島、漢口、芝罘、廣東、南京、  
關東長官へ轉電シ、上海へ轉報セリ

699 昭和7年11月29日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

#### 海關收入上海送金斡旋問題につき宋子文の意向

#### 判明まで撫順炭輸入手続き留保の方針について

上 海 11月29日後発  
本 省 11月29日後着

#### 第一三七二號

#### 往電第一三七一號ニ關シ

(一)ニ對シ宋子文ニ於テ好意的考慮ヲ拂フヘシトハ認メラ  
レサルモ本件ニ付「メ」ニ於テ宋ノ意見ヲ尋ヌヘシト申出

700 昭和7年12月4日 在芝罘佐々木(高義)領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

#### 撫順炭輸入税供託に關し税關長承諾について

テタル事情等判明セサルノミナラス  
當地輸入者ニ於テハ今迄ノ處全部「オーバーサイドペーミ  
ツト」ヲ取付居リ過怠料ノ外差當り取引上ノ不便モナキ次  
第ナルニ付テハ宋子文ノ意向判明スル迄(「メ」ハ一週間位  
ナリト言ヘリ)手續ヲ俟タセルコトトシ宋ニ於テ本件ヲ取  
リ上ケサル場合我方ニ於テ供託ヲ固執セハ過怠料ノ外取引  
上多大ノ支障アルニ付一律抗議附ニテ輸入税ヲ納付セシム  
ルコトト致シタシ

(二)營口積ノ分ニ對シテモ往電第一三一〇號ノ次第モアリ支  
那側ニ於テ供託ヲ認メサル場合ニハ之レ迄大連積ノ分ト同  
様ノ措置ヲ採ル外途ナシト存セラルル處(尤モ今後營口積  
ノ分ハ積出ナキニ付我方ニ於テ供託ヲ固執スルモ取引上支  
障ナキ見込ナリ)前記(一)ノ分ト共ニ何分ノ儀至急御同示ヲ  
請フ

前電通り轉電セリ

芝 罂 12月4日後発  
本 省 12月4日後着

#### 第一四九號

#### 本官發支宛電報

#### 第一一四號

當ナラサルヘキ旨ヲ申入レ置カシメ更ニ當方ヨリ考慮ヲ  
求メタルニ稅關長ハ漸ク供託ヲ承諾セリ依テ直ニ三井ヲ  
シテ手續ヲ了セシメ置キタリ

三、右稅關長ノ供託承諾ハ同人限リノ特別取計ト認メラレ今  
後必スシモ此ノ儘ニ行カサルヘク且之ヲ發表スルハ稅關  
長ノ立場ヲ困難ナラシムル結果當業者ニ不利ヲ及ホス惧  
アルニ付「メーズ」等ニハ當分内密ニシ抗議附ニテ納付  
ヲ餘儀無クセラルル場合ニ持出ス事ニ致度シ御含迄

支ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ

大臣、北平、青島、天津、漢口、廣東、牛莊、關東長官、  
滿へ轉電セリ

リ緩和策ヲ講スル方宜シカルヘシト思考シ  
三、三井ヨリ本件ハ總稅務司ノ訓令ニ依ル事ナルヘキモ地方  
ニハ地方年末ノ慣習モアリ規則通り實行シ得ス現ニ當地  
ニハ上海ノ如ク稅關「ヤード」無ク又「パー・ミット」ノ  
制度存セス從テ問題モ起ラス石炭ノ如キハ荷主ハ入港次

第引取り居ル慣例ナリ且又撫順炭ハ一般商品ニシテ其輸  
入ハ正式ニ申告書ヲ提出シ居ルニ付通關ヲ拒絕スルハ正

701 昭和7年12月7日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

#### 海關收入上海送金斡旋問題に關し宋子文は条 件拒絶のため大連出荷撫順炭の輸入税抗議付 納付を実施について

上 海 12月7日後発  
本 省 12月7日後着

## 第一三九六號

貴電第四九〇號二關シ

七日岸本ヨリ堀内ニ對シ「メーズ」ニ傳言トシテ「メ」ニ於テ自己ノ思附トシテ往電第一三七一號(一)ノ趣旨ニ付宋子文ノ考慮ヲ求メタル處宋部長ハ日本件ヲ考慮シ難シ(not disposed to consider)ト述ヘタル旨通知シ來リタルニ付往電第一三八九號ノ事情モ有リ我方輸入者ヲシテ大連積ノ分ニ對シテハ抗議附ニテ輸入稅ヲ納附セシムルコトトセリ不取敢

滿、天津、青島、漢口、南京、廣東、芝罘、牛莊、關東長官へ轉電シ上海へ轉報セリ

702 昭和7年12月8日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)  
當口出荷撫順炭も抗議付輸入稅納付を実施に  
ついて

上海 12月8日後發  
本省 12月8日後着

第一三九七號

703 昭和7年12月9日 在中國橫竹大使館商務參事官より  
内田外務大臣宛  
中國稅關収入の前年比増加の傾向について  
商第二七八號  
昭和7年12月9日  
(12月14日接受)

上海駐在商務參事官  
横竹 平太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿  
支那稅關收入增加ノ件  
中國銀行總管理處經濟研究室發行ノ中行月刊十一月分ニ記載スル處ニ依レバ支那全國關稅收入ハ滿洲ニ於ケル關稅收入杜絶ノ爲メ相當損失ヲ受ケツ、アルモノ絹、天絹織物、酒類其他輸入稅ノ引上ゲニ稅收ハ去ル七月ニ比シ八月五十餘萬、九月百萬海關兩ヲ增シ十月中ノ稅收ハ各稅關ヨリノ報告未着ニテ不明ナルモ九月ニ比シ增加ノ模様ニテ之レヲ昨年同期ニ比スレバ二割五分乃至三割増ナリト云フ  
寫 公使 上海 青島 商工省

(欄外記入)

機械織貨物提倡ノ見地ヨリ其ノ稅金ヲ輕減スル事トナリ財政部長ハ十五日附ヲ以テ總稅務司ヲ通シ各稅務司ニ對シ今後機械製洋式貨物ハ國內ニ有リテハ最初通過スル稅關ニ於テ輸出正稅及ニ五附加稅ヲ各一回丈ヶ徵收シ外國ニ輸出スル場合ハ總テ免除スル様訓令セル趣ナリ

支、滿、北平、天津、青島、漢口へ轉電セリ

一、棉糸綿布

(1)輸出稅表ニ掲載セルモノハ先ツ同表ニ依リテ課稅シ(同)

表ニナクシテ新輸入稅表ニ掲載セルモノハ輸入稅表ニ依リテ課稅シ(何レノ稅表ニモナキモノハ從價五分稅ヲ課ス二、其他ノ工場製品  
新輸入稅表ニ掲載セルモノハ同表ニ依リテ課稅シ然ラサルモノニハ從價五分稅ヲ課ス

第八二八號

704 昭和7年12月16日 在南京上村總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)  
國貨提倡による洋式機械製貨物の輸出稅等減免に関する財政部長訓令について

南京 12月16日後發

本省 12月16日後着

## 往電第一三九六號二關シ

其後稅關側ヨリ營口積石炭輸入者ニ對シ滿洲諸港向ケ積出ノ石炭ハ訓令ニ基キ一律外國炭トシテ取扱フヘク從テ既ニ許シタル供託ハ輸入稅ニ繰入レ今後ノ輸入ニ對シテハ輸入稅ヲ課徵スヘキ旨通知シ來リ居ル趣ノ處往電第一三七二號(乙)ノ次第二鑑ミ既ニ許サレタル供託金ヲ輸入稅ニ繰入ルルコトニハ強ク反對スヘキモ今後ノ分ニ付キテハ(打合後營口積石炭船二三隻入港セリ)大連ノ分同様抗議附ニテ輸入稅ヲ納付スヘキ旨當業者ニ申聞ケ置ケリ

滿、北平、牛莊、天津、芝罘、青島、漢口、南京、廣東、關東長官へ轉電シ上海へ轉報セリ

其后更ニ改正セラレタリ

(一) 一九一九年二月 海關告示  
 (二) 一九一九年十一月 //

一九二一年七月ヨリ

(一) 海外輸出ハ免稅

(二) 國内運搬ハ所定ノ單一稅  
 又ハ從價五分

一八五八年ノ輸出稅率  
 一九一九年ノ輸入〃

ノ内

何レカ一ヲ選フ

現行制度トノ差異

(一) 輸出ノ場合ハナシ

(二) 國内消費ノ場合ハ現行輸出稅率カ從價五分以下ノモノナル場合ハ利益ナリ

705 昭和7年12月21日 在芝栗佐々木領事代理より  
 内田外務大臣宛(電報)

他の輸入品への悪影響および稅関長の立場を考慮し撫順炭輸入稅供託を止め抗議付納付実施につき稟請

トト認メラルルニ付右ニ措置シ然ル可キヤ何分ノ御回訓

706 昭和7年12月23日 在中國有吉公使より  
 内田外務大臣宛(電報)

上海、南京へ轉報アリ度シ  
 大臣、北平へ轉電セリ

傾銷貨物審査委員會組織と石炭ダンピングに  
 関する審査状況について

トト認メラルルニ付右ニ措置シ然ル可キヤ何分ノ御回訓  
 ヲ請フ

上 海 12月23日後発  
 本 省 12月23日後着

第一四三五號  
 南京發閣下宛電報第八二九號ニ關シ

第一六三號  
 本官發支宛電報  
 第一二六號

往電第一一四號ニ關シ

芝 署 12月21日後発  
 本 省 12月21日後着

一、二十日稅關長來訪シ中日交渉ノ結果撫順炭ニ對スル輸入稅不要ノコトニ決定セハ直ニ返還ス可キニ付裏ニ供託セシ分ヲ輸入稅ニ振替方申出アリシカ本二十一日三井ハ人參ノ戻稅支拂方稅關ニ申告セシニ稅關ハ供託振替セサル限り應シ難シト拒絕セシヲ以テ右兩者間ニハ何等關係無キコトヲ篤ト說得セシモ稅關ハ應セサル趣ナリ  
 二、三井トシテハ供託ハ中央銀行小切手ニテ振出シ居ル關係上政變等ニ依リ不渡トナルコトヲ懸念シ又供託ヲ固執スル結果稅關ノ感情ヲ害シ他ノ輸入品迄惡影響ヲ及ホスコトヲ慮リ抗議付ニテ納付シ度キ意嚮ナルノミナラス稅關長ハ其着任後總稅務司ノ訓令ニ反シ供託ヲ認メタル立場上困却ノ餘リ特ニ申出テタルコトナレハ同人ノ苦境ヲモ考へ同人取扱ノ分ニ限り抗議付ニスル方實狀ニ適スルコシ

一、二十三日大村ヲシテ沈關務署長ニ内密ニ確カメシメタル處沈ノ内話要領左ノ通り尙右出所ハ外部ニ洩レサル様致度シ  
 傾銷稅施行細則(二十三日新聞ニ掲載記事郵報ス)ハ既ニ制定セラレ且傾銷貨物審査委員會ノ組織ハ了シタルカ委員會ハ商人ノ申請ニ依リ審査決定スルモノニシテ目下申請セラレ居ルハ石炭ノミニアルカ委員會ハ之カ審議ノ爲二回會議ヲ開キタルノミニテ未タ決定ニ達セス日本側ヨリモ非公式ニ各種ノ「エヴィデンス」ヲ提出セラルレハ結構ナリ云々<sup>開カ</sup>  
 三、右ニ關シ當業者ニ對シ豫テ準備セシメ置キタル材料提出方申聞ケ置キタリ